

平成27年度 町内遺跡発掘調査報告書

2017年3月
長野県高森町教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野県下伊那郡高森町における各種開発事業に伴う平成27年度町内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業として高森町（高森町教育委員会事務局文化財保護係）が実施した。
- 3 調査遺跡（遺跡記号）は、武陵地遺跡（BRJ）・増野新切Ⅱ遺跡（SIBⅡ）・増野二軒屋遺跡（MNK）・上平遺跡（UED）・駒場遺跡（KMB）・北原遺跡（KTH）・堂垣外遺跡（DGT）の7遺跡8地点である。
- 4 調査実施にあたり基準点測量を㈸M2クリエーションに委託した。
- 5 本調査に係る調査組織は次のとおりである。

教 育 長	光沢郁夫
事 務 局 長	本島 憲
文化財保護係長	岩崎 徹
文化財保護係	高島佳奈
発掘作業員	小池義人・酒井好訓・菅野賢治・寺澤 誠・樋本宣子・松下梅治 宮崎 寛
整理作業員	樋本宣子
- 6 本調査に係る発掘作業、整理作業については、次の諸氏の指導・助言・協力をいただいた。
芦部公一、市澤英利、小林正春、櫻井秀雄、原明芳、松島高根、吉川金利、綿田弘実
長野県教育委員会
- 7 本書に掲載した平成27年度調査遺跡地図は国土地理院1:50000地形図「飯田」を、各調査遺跡位置図は高森町都市基本計画図1:2500を1:5000に縮小して使用している。
- 8 本報告書では以下の遺構略記号を使用した。
竪穴住居址・竪穴—SB、土坑—SK、溝跡—SD
- 9 本書の実測図について土器（土師器含む）・土製品の断面は 、 は須恵器、 は陶器を示している。また、土器内面の  は黒色処理を示す。断面図の「S」は石を示す。
- 10 本報告書に係る資料は、高森町教育委員会が管理し、高森町歴史民俗資料館に保管してある。

目 次

例 言

目 次

平成27年度 調査遺跡地図	1
1 武陵地遺跡	2
2 増野新切Ⅱ遺跡	5
3 増野二軒屋遺跡	8
4 上平遺跡	11
5 駒場遺跡	14
6 北原遺跡	17
7 駒場遺跡（その2）	20
8 北原遺跡（本調査）	23
9 堂垣外遺跡	30
報告書抄録	40

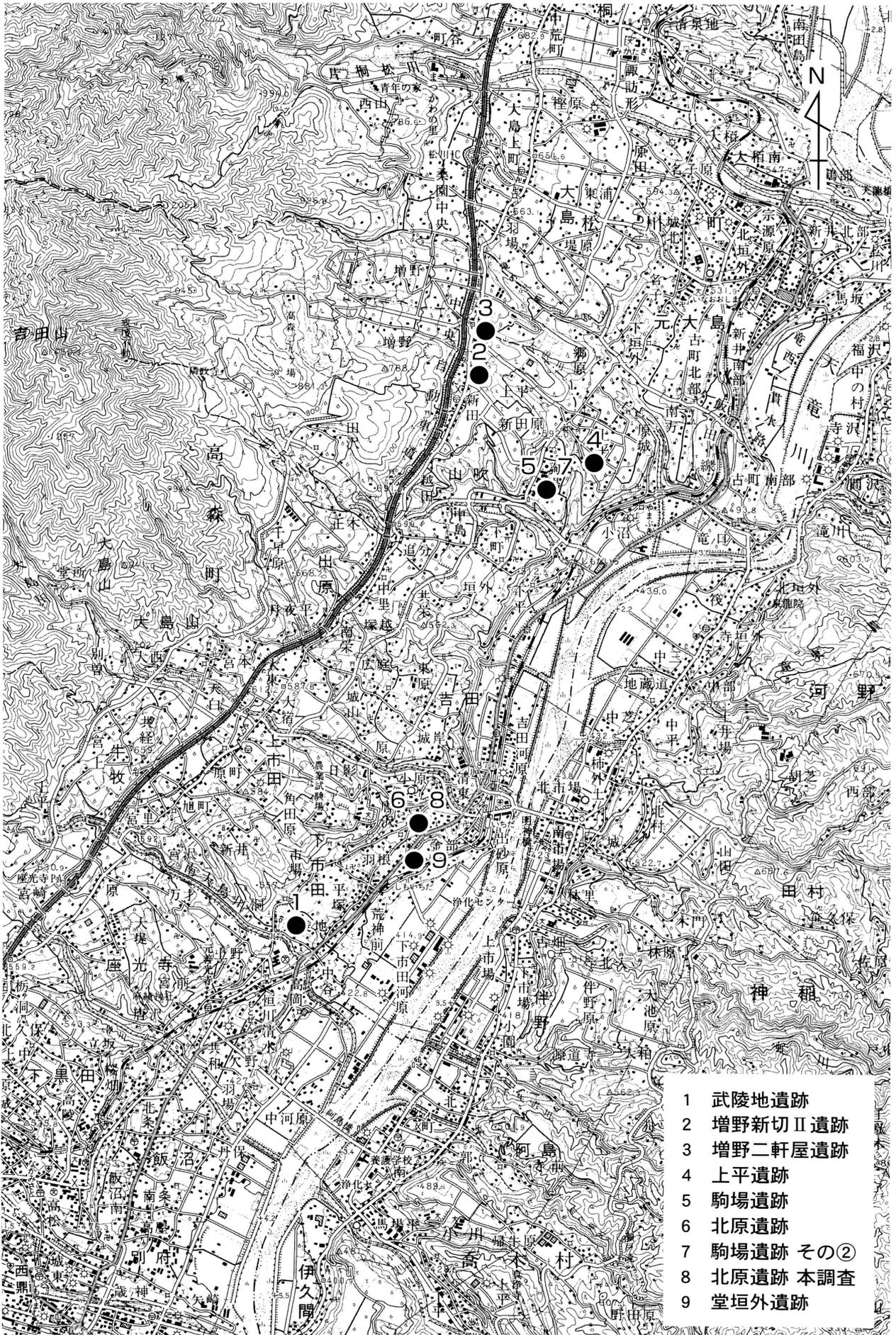


図1 平成27年度調査遺跡位置図 (1 : 50,000)

ぶ り よ う じ い せ き
1 武陵地遺跡

(1) 調査の概要

- 1 調査地 高森町下市田220-1
- 2 調査期間 平成27年5月11日
～5月15日
- 3 調査の目的 試掘調査
- 4 調査の要因 個人住宅建設計画
- 5 開発面積 112㎡
- 6 調査担当者 高島 佳奈
- 7 調査面積 24㎡
- 8 検出遺構 溝跡1
- 9 出土遺物 土器片（縄文・弥生）、須恵器片
石器（打製石斧）

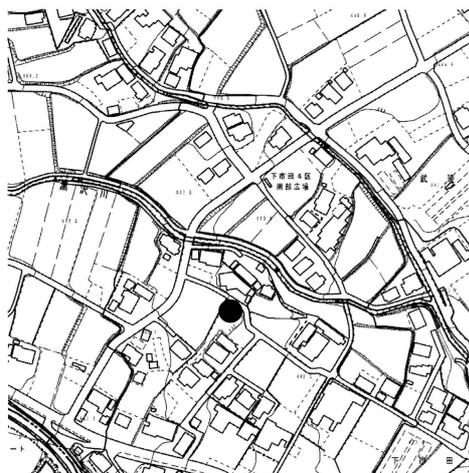


図2 武陵地遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

届出箇所は下市田下段の南部、飯田市との境をなす南大島川沿いに展開する弥生・古墳・奈良・平安時代の集落遺跡と、秋葉塔の塚（武陵地1号古墳）ほか6基を数える古墳群（武陵地古墳群）の2つの性格を持つ遺跡である。

報告書は未刊行であるが、遺跡内における過去の発掘調査履歴として、土地改良総合整備事業に伴う発掘調査（平成8・9年度）、ふるさと農道湯ヶ洞線建設工事に伴う発掘調査（平成15年度）があり、弥生時代集落、古墳時代墳丘墓・新発見古墳等の調査がされている。

(3) 調査の経過

平成27年5月8日付け、高森町下市田223-2 松崎 愉より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は、個人住宅建設計画であり、直径約60cm、深度3mで42箇所の柱状改良を行った後、40cmの基礎掘削を行うというものであった。

隣接地に福神の塚（武陵地5号）があり、工事に伴い遺構を破壊する可能性があるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を行うこととした。平成27年5月11日より試掘調査を開始した。調査は住宅建設箇所に南西から北東へトレンチ1を、北西から南東にトレンチ2を設定し、重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、遺物は少量出土したものの、隣接する福神の塚（武陵地5号）に関連する遺構は無く、用途不明の溝跡があるのみであったため、これ以上の掘削の必要は無いと判断した。調査地点の測量は、断面図を任意の基準点を使用して作成し、測量を(有)M2クリエイションに委託実施した。現地における作業を5月15日に終了し、工事着工となった。

(4) 調査の所見

断面に砂や小礫を含む層が細かく重なっており、遺物も摩耗したものが多くに加え、地形からも付近を通る南大島川の氾濫原ではないかと推測される。

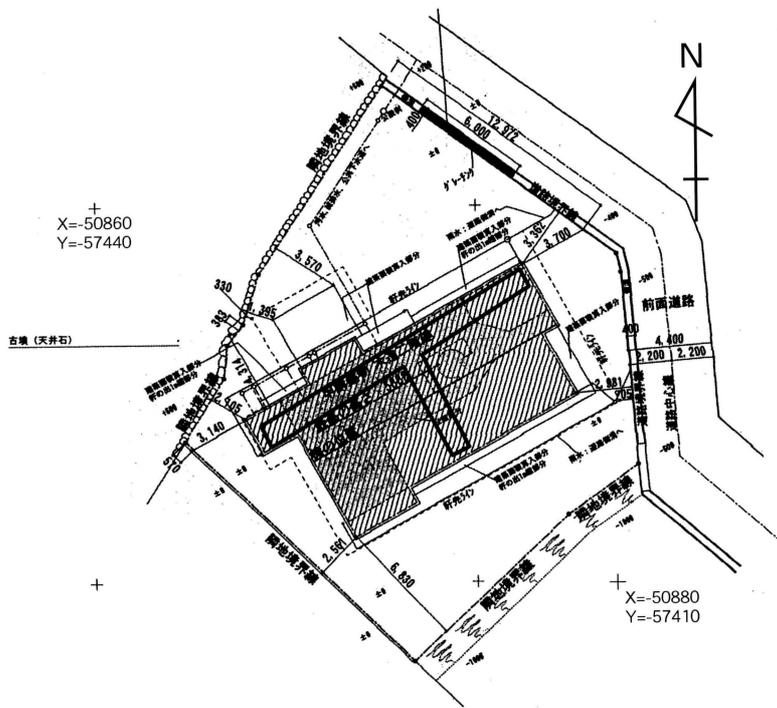


図3 武陵地遺跡トレンチ配置図(1:400)

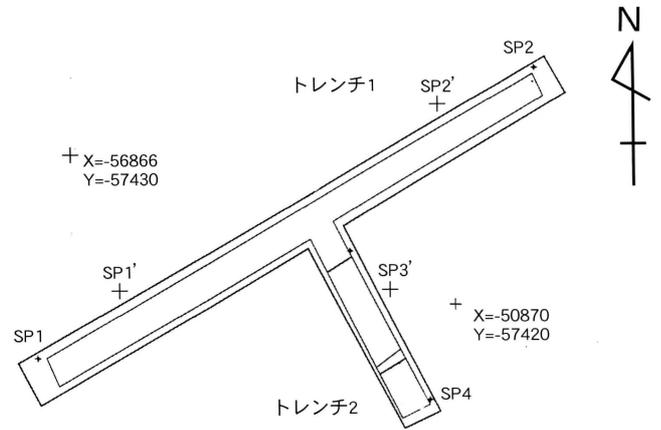


図4 武陵地遺跡調査全体図(1:200)

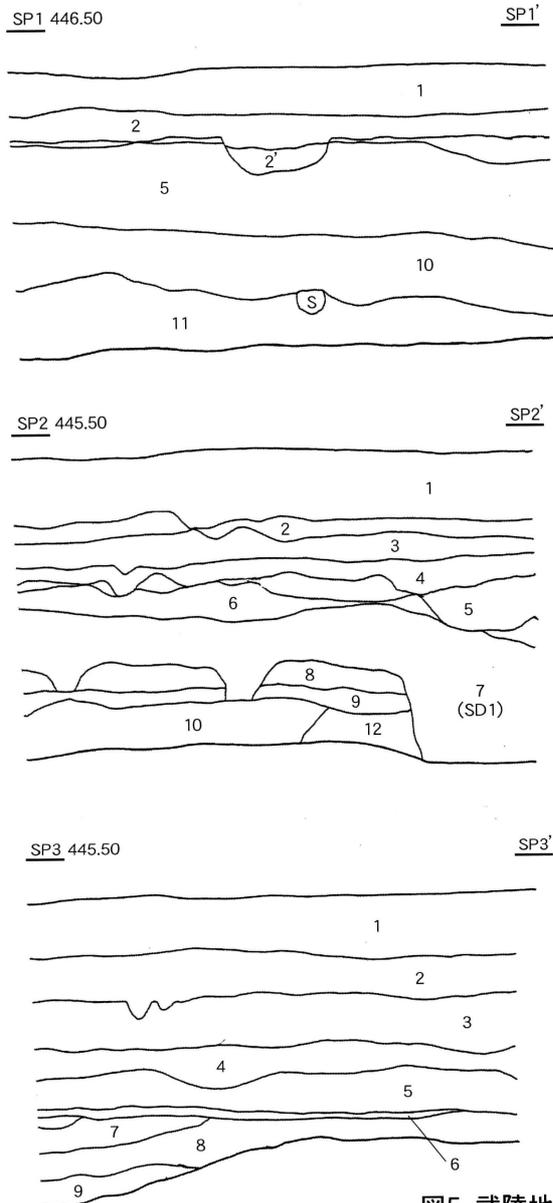


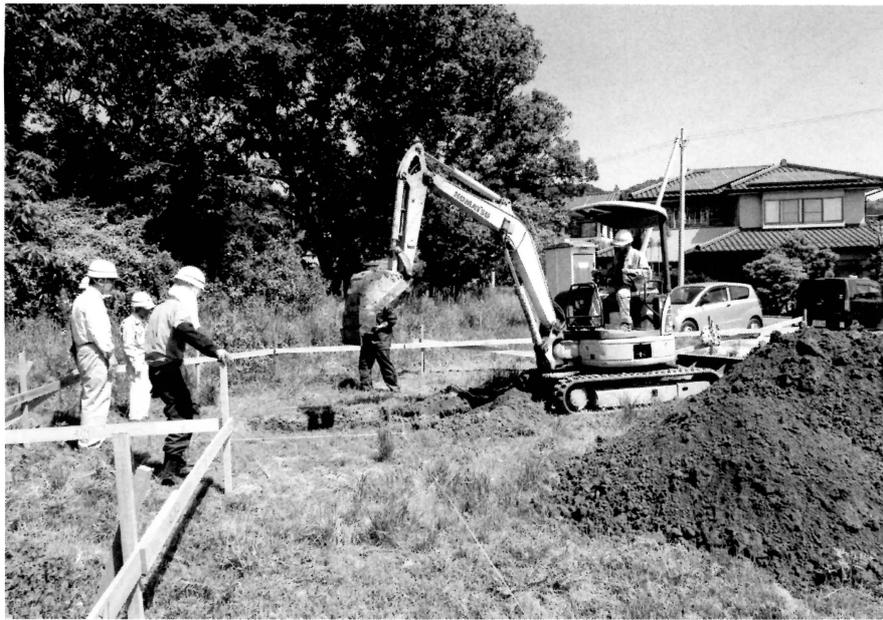
図5 武陵地遺跡土層断面図(1:40)

トレンチ 1

- 1層: 10Y R4/2(表土): 灰黄褐 : 粘性あり、しまりあり、水田耕土。
- 2層: 10Y R4/4 : 褐 : 粘性あり、しまりあり、鉄分を薄く含む。
- 2'層: 10Y R3/2 : 黒褐 : 粘性なし、しまり弱い。ビニール片等を含む攪乱。
- 3層: 10Y R4/2 : 灰黄褐 : 粘性あり、しまりあり。
- 4層: 5Y R3/4 : 暗赤褐 : 粘性あり、しまりあり、水田由来の鉄分含有層。
- 5層: 10Y R4/4 : 暗褐 : 粘性少し、しまり弱い、砂と小礫の混ざる土。
- 6層: 7.5Y R2/3 : 極暗褐 : 粘性なし、しまり弱い、部分的に鉄分を含む土が混ざる。
- 7層: 10Y R4/6 : 褐 : しまりなし、粘性なし、
川砂のような粒の大きい砂に小礫や砂利が混じる。
- 8層: 10Y R4/3 : にぶい黄褐: 粘性強い、しまり強い、粒が細かく揃った強固な粘土。
- 9層: 10Y R5/4 : にぶい黄褐: 粘性極強い、しまりなし。
- 10層: 10Y R3/3 : 暗褐 : 粘性あり、しまりあり、土のような感触。
- 11層: 10Y R3/3 : 暗褐 : 粘性弱い、しまり弱い、雲母目立つ。
- 12層: 10Y R4/4 : 褐 : 粘性弱い、しまりあり、砂とシルトを含む粘土。

トレンチ 2

- 1層: 10Y R5/3(表土): にぶい黄褐: 粘性あり、しまりあり、水田耕土。
- 2層: 10Y R4/2 : 灰黄褐 : 粘性あり、しまりあり、1%程度砂混じる。
- 3層: 10Y R4/4 : 褐 : 粘性あり、しまりあり、小礫3%程度混じる。
- 4層: 10Y R4/3 : にぶい黄褐: 粘性あり、しまりあり、雲母目立つ、粘土質シルト。
下方にいにくにつれて色が濃くなり灰黄褐になる。
- 5層: 10Y R3/2 : 黒褐 : 粘性やや弱い、しまりやや弱い、砂を主体に砂利が混じる。
- 6層: 7.5Y R3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまりあり、粒が揃ったシルト質の粘土。
- 7層: 10Y R2/2 : 黒褐 : 粘性あり、しまりやや弱い、砂を多く含む土。
- 8層: 7.5Y R4/4 : 褐 : 粘性なし、しまりなし、花崗岩由来の白礫含む赤い砂。
- 9層: 10Y R3/3 : 暗褐 : 粘性なし、しまりなし。



調査風景
(写真左手に福神の塚)



検出状況 (トレンチ1)



小林正春氏 (県考古学会
会長) による現地指導

2 ましのしんきりにいせき 増野新切Ⅱ遺跡

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|----------------------|
| 1 調査地 | 高森町山吹8825-3 |
| 2 調査期間 | 平成27年7月22日
～23日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 個人住宅 |
| 5 開発面積 | 62㎡ |
| 6 調査担当者 | 高島 佳奈 |
| 7 調査面積 | 28㎡ |
| 8 検出遺構 | なし |
| 9 出土遺物 | 土器片、石器片(石斧)、
黒曜石片 |

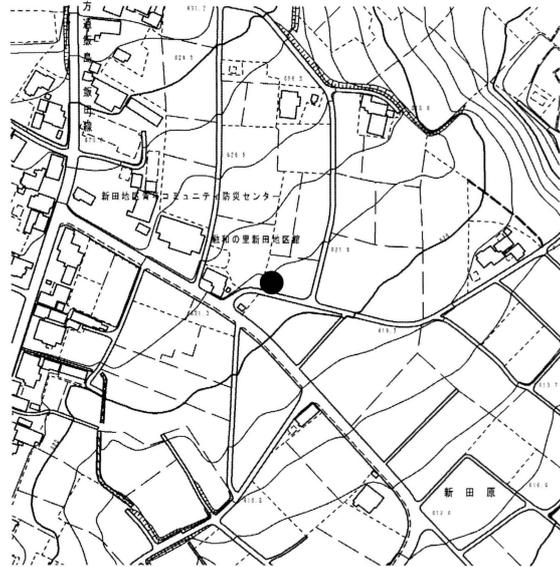


図6 増野新切Ⅱ遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

届出箇所は新期扇状地先端部であり増野新切遺跡の縁辺部であるが、新田原遺跡の縁辺部とも重なる場所でもある。

縄文時代の遺跡とされているが、過去の発掘調査等の履歴は無く、遺跡の状況は不明である。昭和47年の中央道関連の調査で78軒の住居址が検出された箇所は、「増野新切Ⅰ遺跡」であり、届出箇所から主体部までは、およそ400～500mほど離れている。

(3) 調査の経過

平成27年7月6日付け、伊那市西町6212-6 竹松土地家屋調査士事務所 土地家屋調査士 竹松慎一より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は、個人住宅の建設であり、最大1mの基礎掘削を伴うことから、関係する遺構・遺物の破壊が予想されるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を行うこととした。

平成27年7月22日より試掘調査を開始した。西から東にトレンチ1を、北から南に向けトレンチ2を設定し、遺跡の状況を確認した。重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、地山までの深度はごく浅く、遺構は検出されなかった。断面図を任意の基準点を使用して作成し、測量を(有)M2クリエイションに委託実施した。現地における作業を7月23日に終了し、工事着工となった。

(4) 調査の所見

今回の試掘調査では、深度は30cm程度で、表土(耕土)のすぐ下に地山がある状態であった。攪乱も多く、ビニール片や肥料も多く見つかったことから、耕作により遺構面は既に大きく破壊されていると推測される。

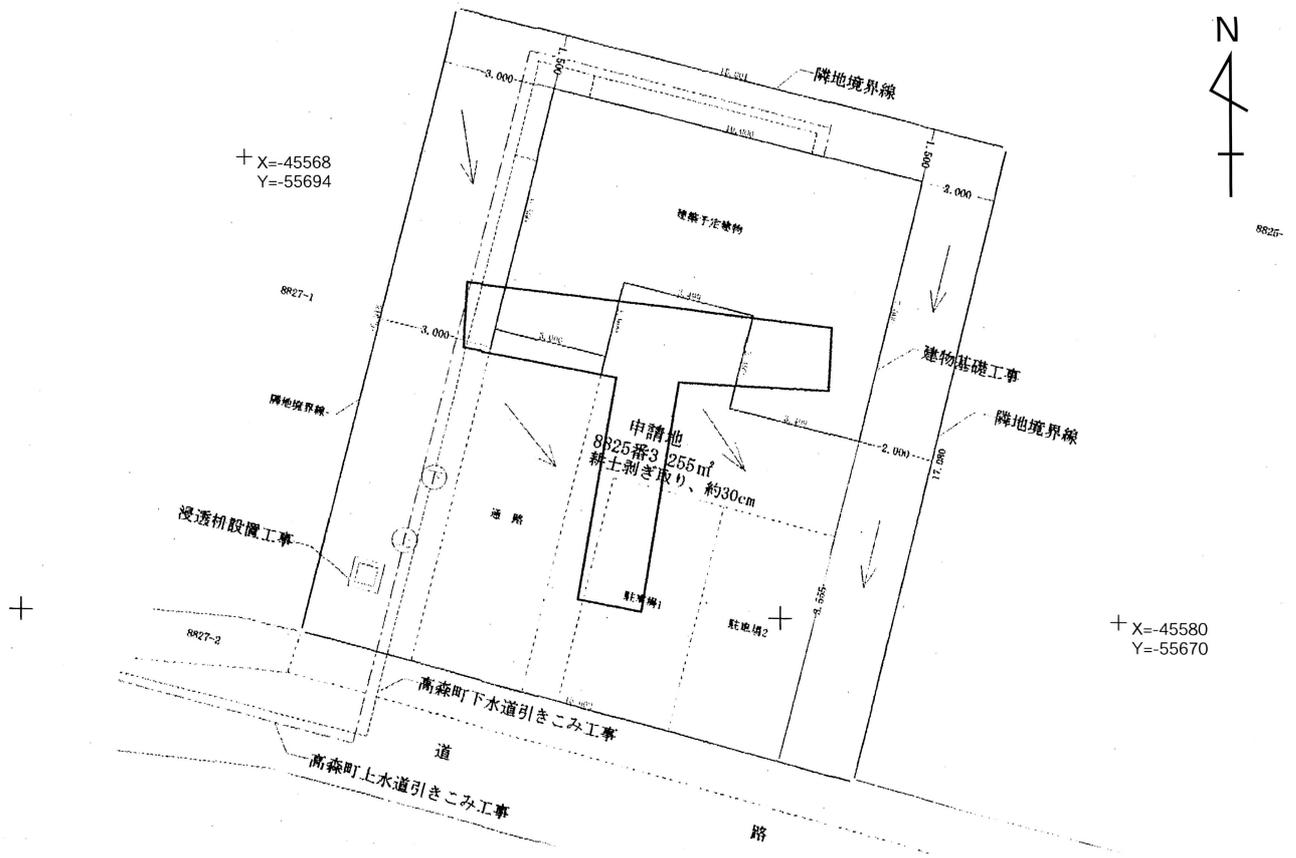


図7 増野新切Ⅱ遺跡トレンチ配置図(1:200)

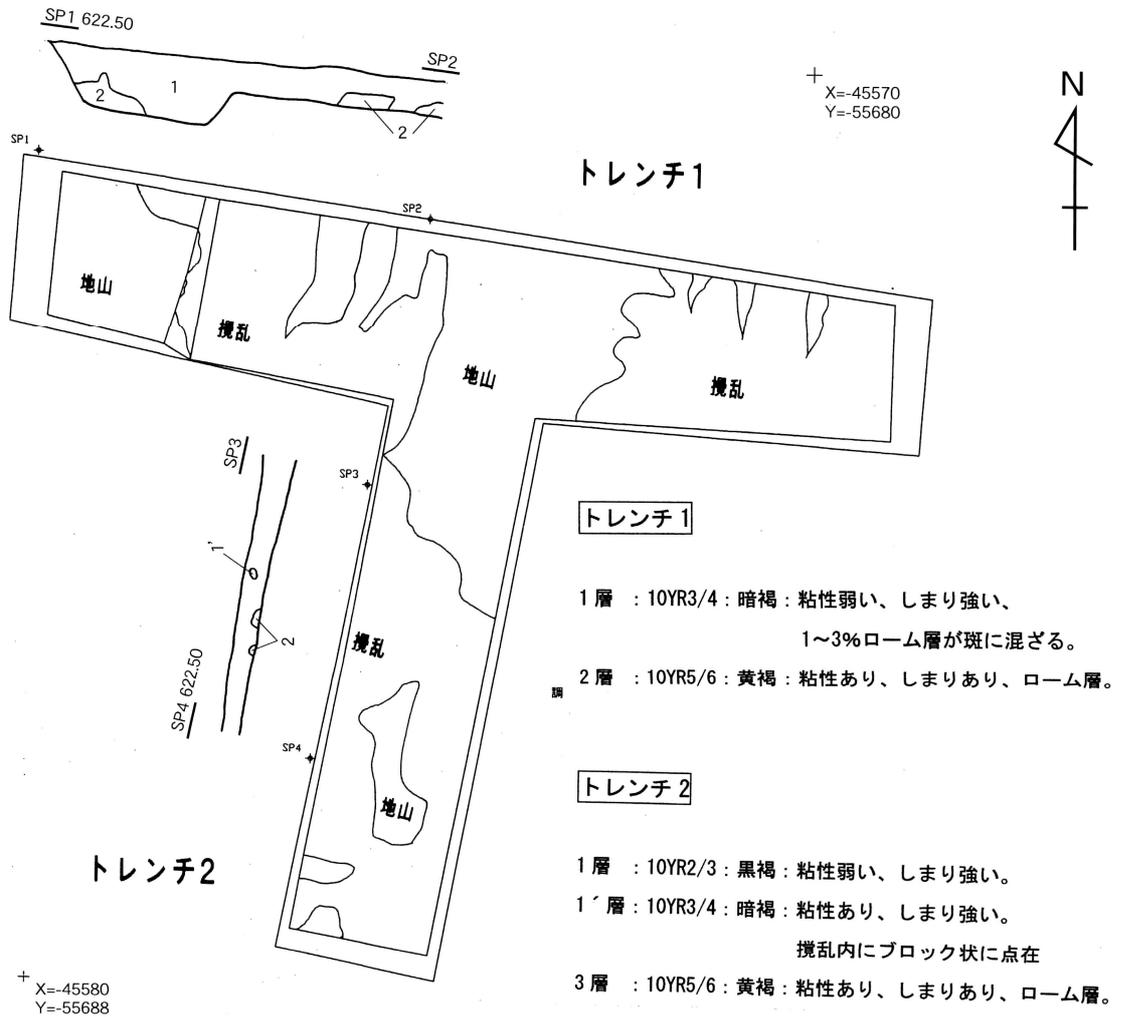


図8 増野新切Ⅱ遺跡調査図及び土層断面図(1:80)



作業風景



検出状況



委託測量状況

3 ましのにけんやいせき 増野二軒屋遺跡

(1) 調査の概要

1 調査地	高森町山吹5232-10
2 調査期間	平成27年8月19日～20日
3 調査の目的	試掘調査
4 調査の要因	太陽光発電施設および 沈砂池
5 開発面積	56㎡
6 調査担当者	高島 佳奈
7 調査面積	11㎡
8 検出遺構	なし
9 出土遺物	なし



図9 増野二軒屋遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

調査箇所は、高森町山吹の北部、松川町境にある大沢川と寺沢川の間の新規扇状地、標高約600mに位置し、東西約500m、南北約200mに広がる縄文時代の遺跡である。

H25年度に行われた県営中山間総合整備事業によるため池の建設に伴う試掘調査では、遺構は見つかっておらず、遺物も遺跡の中心と思われる上方からの流れ込みらしき数点の土器・石器の出土があっただけにとどまっている。

(3) 調査の経過

平成27年7月1日付け、高森町山吹5233-3 田中 愛子より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は、太陽光発電設備と沈砂池であり、ソーラーパネルの設置に伴いφ75mmのスクリーウ架台を深度約1.6mで96箇所打ち込み、2m×4mの沈砂池を設置することから、関係する遺構・遺物の破壊が予想されるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を行うこととした。

平成27年8月19日より試掘調査を開始した。調査は南東から北西に向け一本のトレンチを設定し、重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、地山までの深度はごく浅く、遺構・遺物ともに検出されなかった。調査地点の測量は、断面図を任意の基準点を使用して作成し、平面図を(有)M2クリエイションに委託実施した。現地における作業を8月20日に終了し、工事着工となった。

(4) 調査の所見

今回の試掘調査では、浅い場所では10cm程度から20cm程度で、表土のすぐ下に地山がある状態であった。調査箇所は元々丘ようになっており、過去に切り盛りによって造成されたという経過から、その際に遺構面は削平されたものと推測される。

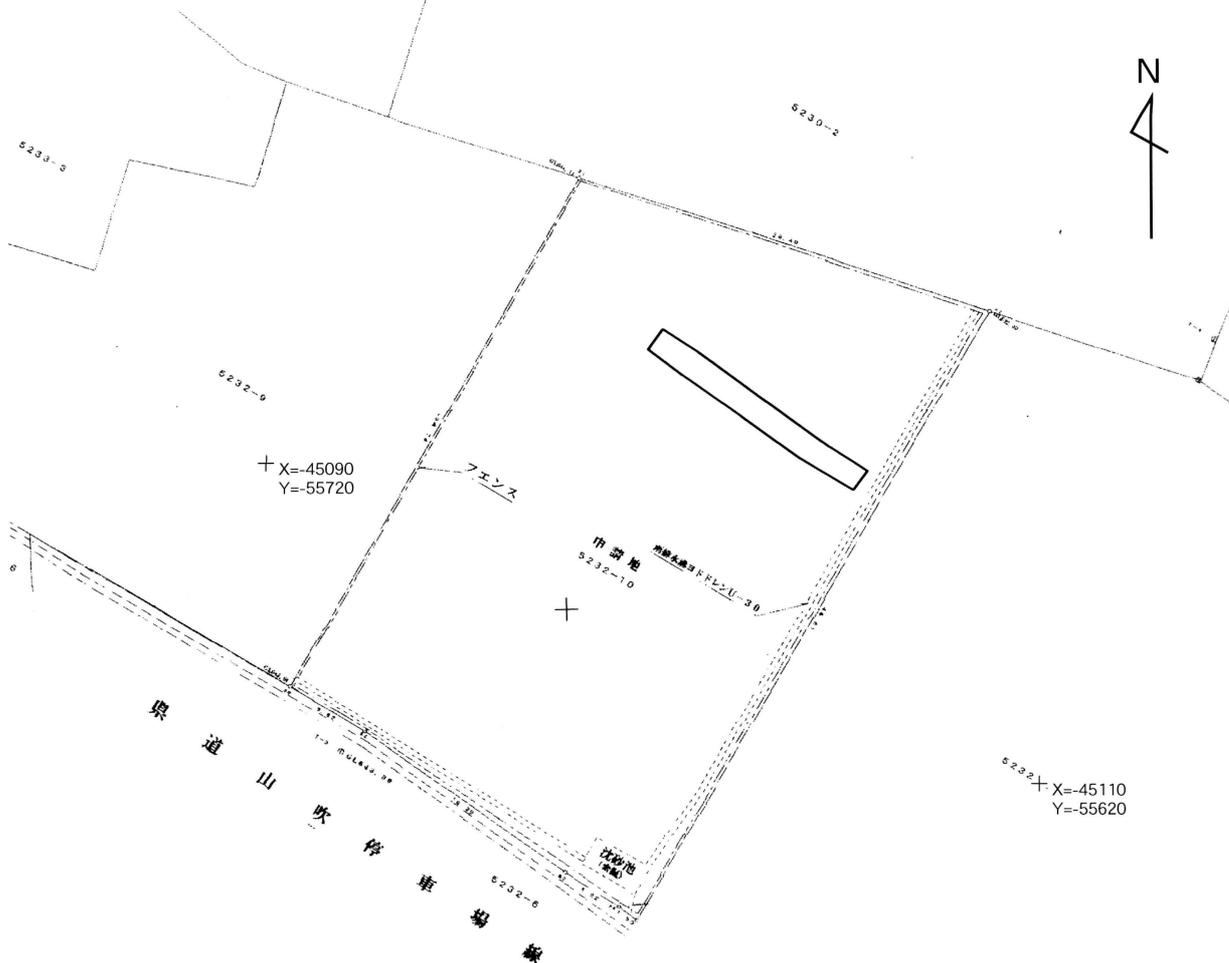


図10 増野二軒屋遺跡トレンチ配置図(1:500)

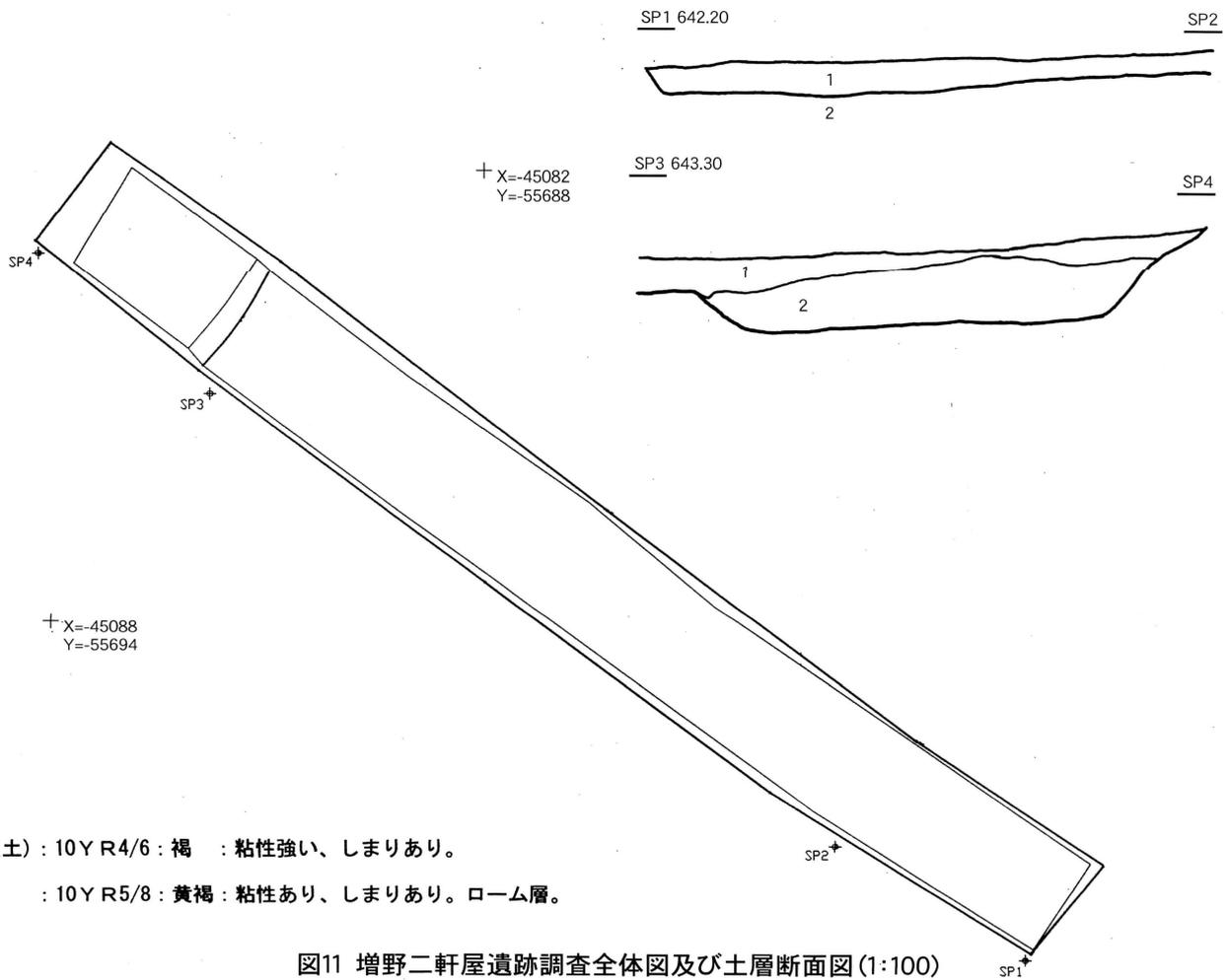


図11 増野二軒屋遺跡調査全体図及び土層断面図(1:100)



作業風景



検出状況



委託測量状況

うえだいら い せき 4 上平遺跡

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 調査地 | 高森町山吹5051-3 |
| 2 調査期間 | 平成27年9月9日
～11日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 地域集会施設 |
| 5 開発面積 | — |
| 6 調査担当者 | 高島 佳奈 |
| 7 調査面積 | 3 m ² |
| 8 検出遺構 | なし |
| 9 出土遺物 | 土器片、石器片、瓦片
陶器片 |

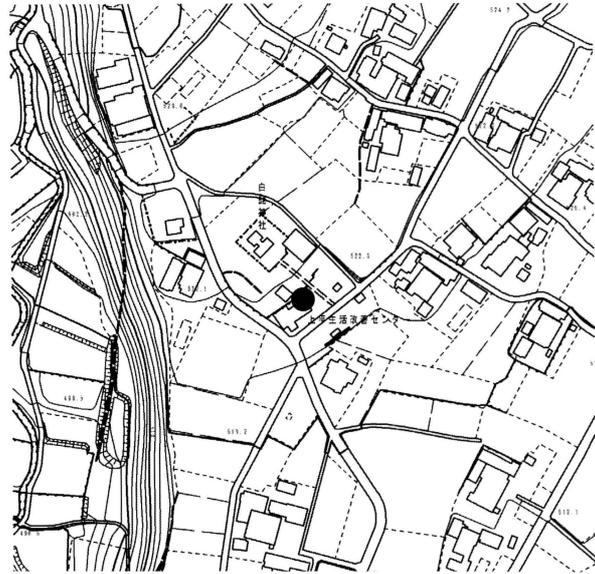


図12 上平遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

届出箇所は、高森町山吹区の北東部、上平地区の北寄りに位置し、新規扇状地上に位置している。東西400m、南北900mを遺跡の範囲としており、平成19年に県道の改良工事に伴う試掘調査が行われ、遺物はなかったが、断面から土坑または溝跡と思われる落ち込みが見つかった。散発的に遺構・遺物は検出されているものの、集落を形成するような集中箇所は認められていない。

(3) 調査の経過

平成28年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財包蔵地及び史跡・名勝・天然記念物等の保護について調査依頼を行った際、高森町役場経営企画室より、当計画についての提出があった。建設予定箇所が「上平遺跡」の範囲内であることから、関係する遺構・遺物の存在が予想されるため、事前に試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を行うこととした。

平成27年9月9日より試掘調査を開始した。調査は地域集会施設建設予定地にトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。人力による表土掘削及び遺構検出作業を実施した。

この結果、地山までの深度は80cm程あり、遺構は検出されなかった。断面図を任意の基準点を使用して作成し、測量を(有)M2クリエイションに委託実施した。現地における作業を9月11日に終了した。

(4) 調査の所見

今回の試掘調査では、調査時には既存の建物があったため、ごく一部の調査となった。深度は80cm程だったが、ローム層の中からコンクリート片が見つかる等攪乱が激しく、遺物も瓦礫と共に出土しているため、遺跡に伴うものか不明である。調査箇所には以前にも建物があり、過去何度か建て直しが行われていることから、遺構面はすでに破壊されていると推測される。

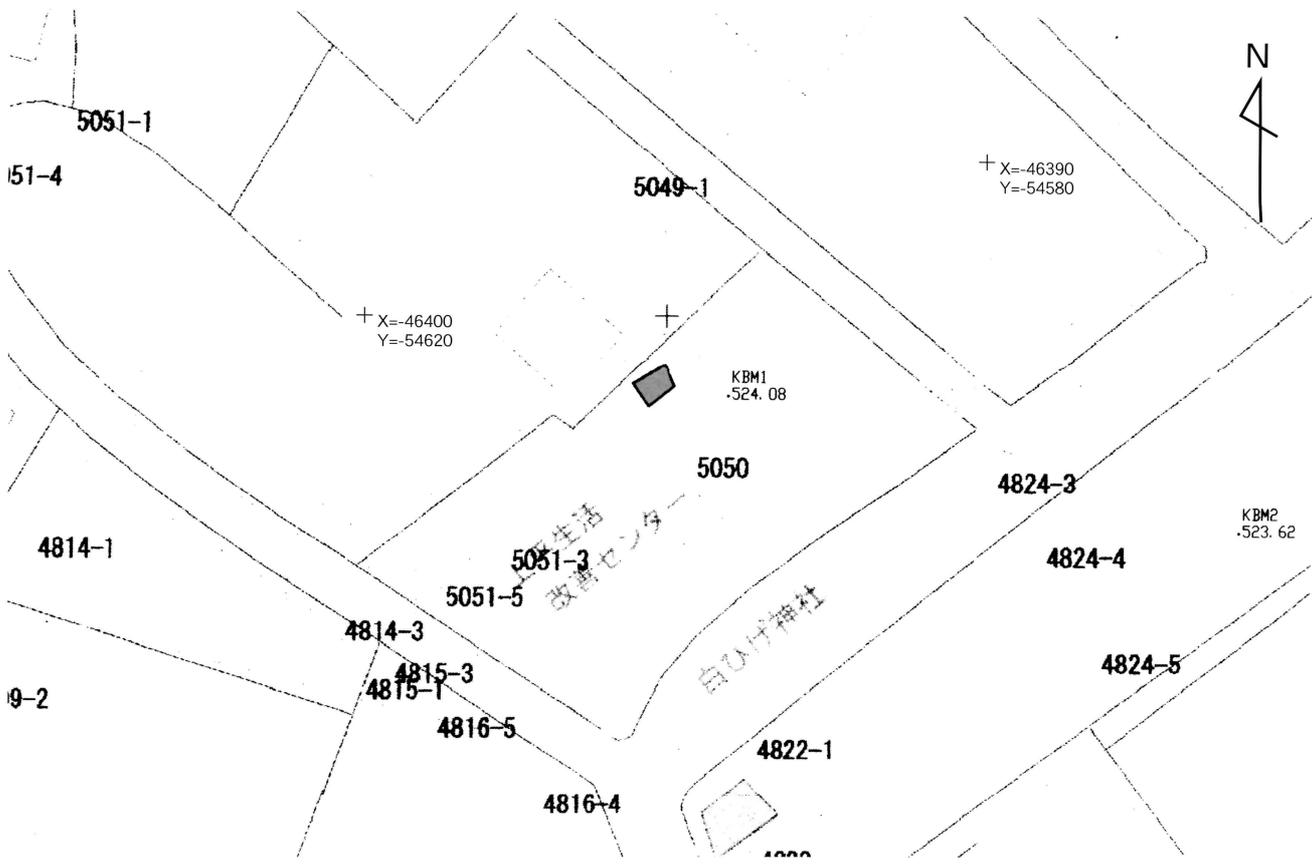


図13 上平遺跡トレンチ配置図(1:500)

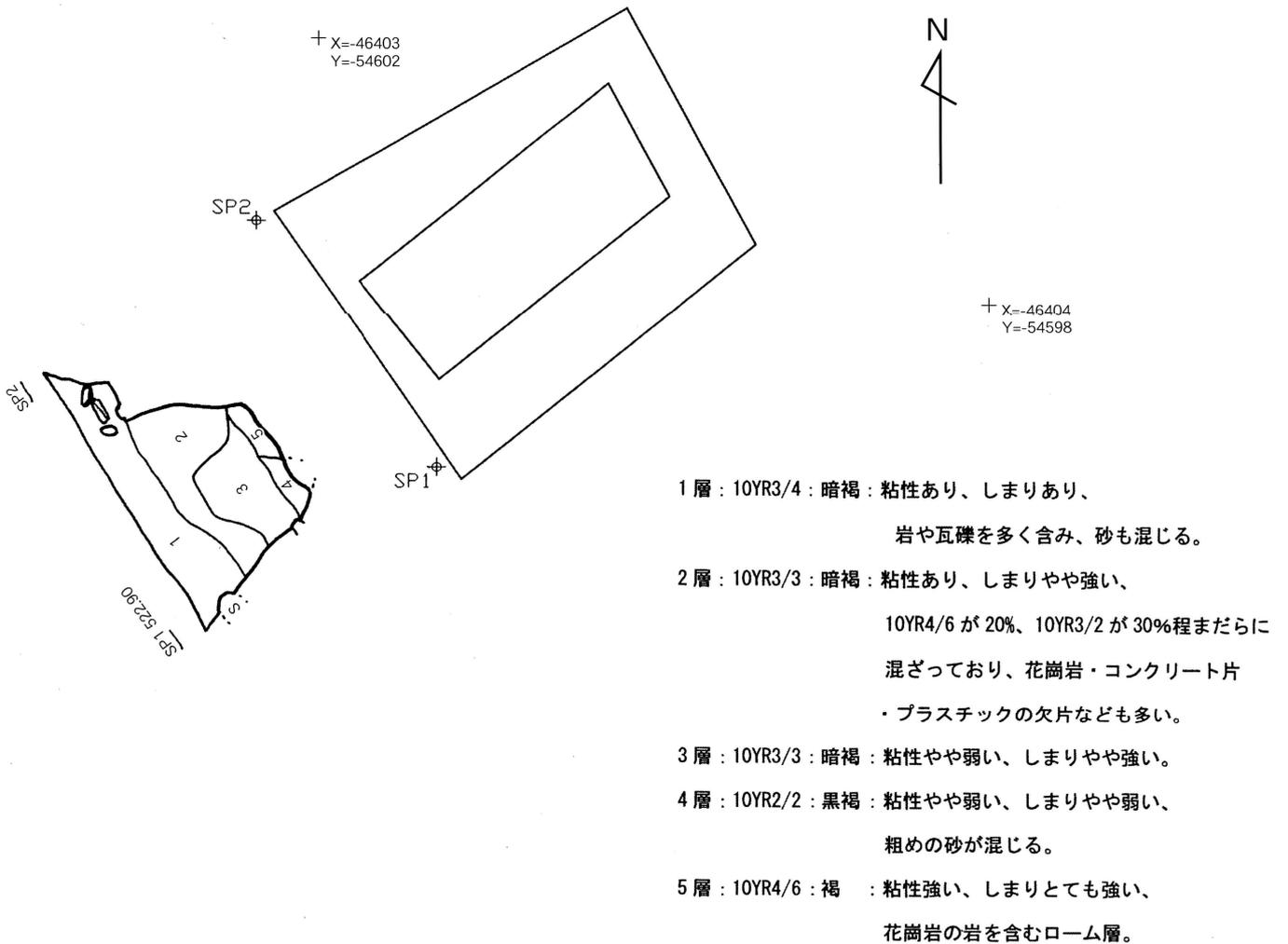


図14 上平遺跡調査全体図及び土層断面図(1:40)



調査風景



検出状況



測量 断面図作成

5 こまばいせき 駒場遺跡

(1) 調査の概要

- 1 調査地 高森町山吹3760-2
- 2 調査期間 平成27年9月15日
～25日
- 3 調査の目的 試掘調査
- 4 調査の要因 山吹区事務所建設計画
- 5 開発面積 ー
- 6 調査担当者 高島 佳奈
- 7 調査面積 43㎡
- 8 検出遺構 土坑7、溝跡1
- 9 出土遺物 土器片（縄文・弥生・中世）
須恵器片、石器



図15 駒場遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

高森町山吹区駒場地区の標高約430m、南北700m、東西300mを遺跡の範囲とする。縄文から中世の遺跡とされているが、過去の発掘調査等の履歴はなく詳しい性格は明らかではない。

(3) 調査の経過

平成28年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財包蔵地及び史跡・名勝・天然記念物等の保護について調査依頼を行った際、高森町役場経営企画室より、当計画についての提出があった。建設予定地が「駒場遺跡」の範囲内であることから、関係する遺構・遺物の存在が予想されるため、事前に試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を行うこととした。

平成27年9月15日より調査を開始した。調査は山吹区事務所建設計画地に3箇所のトレンチを設定し、重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。

地山までの深度は全てのトレンチで40～50cm程で土坑が7基、溝跡が1条検出された。

断面図を任意の基準点を使用して作成し、測量を㈲M2クリエイションに委託実施した。現地における作業を9月25日に終了した。

(4) 調査の所見

発見された土坑のうち、4つは形状から近代のものと推測される。またトレンチ1からトレンチ3に向かって横切る用途不明の溝跡が1箇所検出された。この溝跡は、底に近い部分から出土した土器から、縄文時代中期～後期以降のものと推測される。

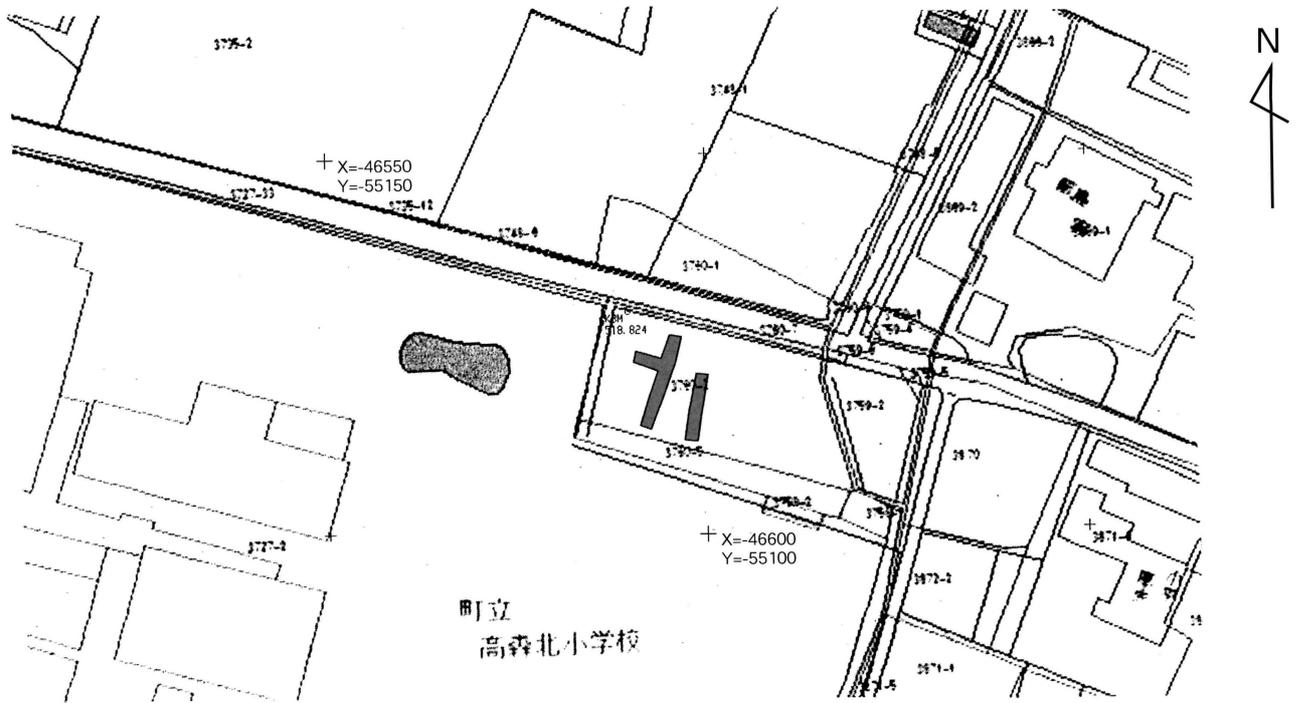


図16 駒場遺跡トレンチ配置図(1:1000)

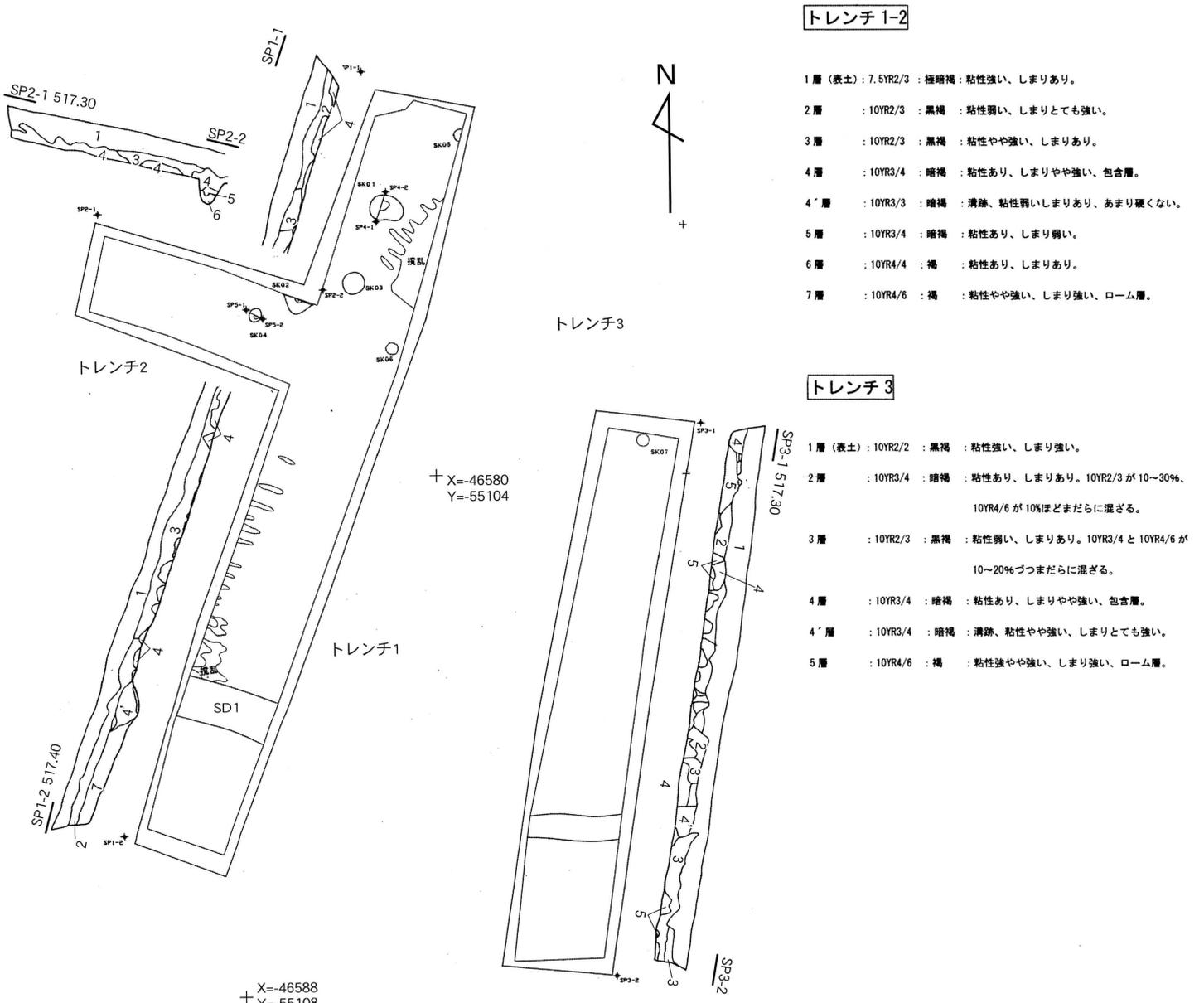


図17 駒場遺跡調査全体図及び土層断面図(1:100)



調査風景



検出状況



測量 断面図作成

6 きたはら いせき 北原遺跡

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|----------------------|
| 1 調査地 | 高森町下市田1737-1 |
| 2 調査期間 | 平成27年11月11日
~20日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 個人住宅建設 |
| 5 開発面積 | 63㎡ |
| 6 調査担当者 | 高島 佳奈 |
| 7 調査面積 | 3㎡ |
| 8 検出遺構 | なし |
| 9 出土遺物 | 土器片（北原式土器）
石器、陶器片 |

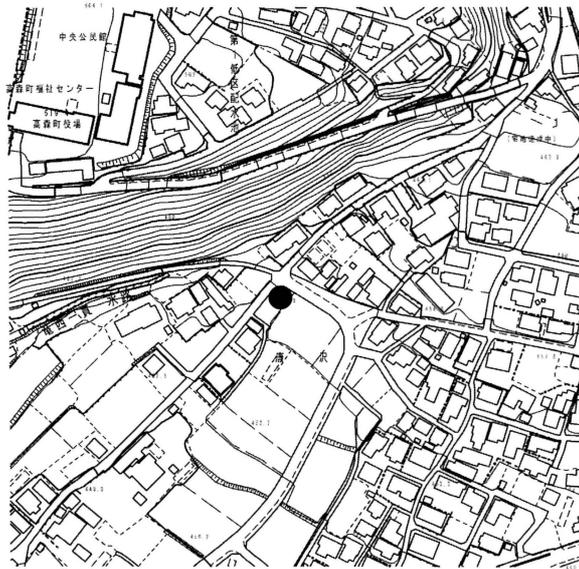


図18 北原遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

本遺跡は下市田区北部の低位段丘上に位置し、東西600m、南北300mの範囲に広がる縄文から中世の集落遺跡である。また、遺跡北端部に1基、南側段丘端部に7基の古墳が存在し古墳群を形成している。

昭和45・47年実施の住宅地開発に伴う発掘調査で弥生時代中期後半北原期の集落を調査し、その後平成17・18年実施の土地改良事業、集会施設建設に伴う調査で同時期の集落の広がりが確認された。平成17年には北原2号古墳、同11年には若宮の森古墳の調査を実施した。また前述平成17・18年調査で3基の古墳、1基の方形周溝墓を新発見し、段丘端部に5世紀から7世紀にかけて古墳が造営されていることが判明してきた。

(3) 調査の経過

平成27年10月28日、丸三建設様より個人住宅建設について相談があった。計画段階で遺構・遺物の存在の確認を行うため、工事に先立ち試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を行うこととした。

平成27年11月11日より試掘調査を開始した。遺跡の深度の確認を行うため、住宅建設予定位置に2m×2mのトレンチを1箇所設置し、人力での表土掘削後、遺構検出作業を実施した。

この結果、礎石の可能性が考えられる石が発見され、遺物も弥生時代を中心に複数出土した。断面図を任意の基準点を使用して作成し、測量を㈲M2クリエイションに委託実施した。現地における作業を11月20日に終了した。

この調査結果を受け、地盤調査の結果によっては本調査を行うこととなった。

(4) 調査の所見

今回の試掘調査では、深度を確認するために2m×2mのトレンチのみの調査を行ったが、北原式土器を始め複数の遺物が出土した。トレンチの北西側の壁面には遺物を含んだ砂と砂利の層があり、流路ではないかと推測される。

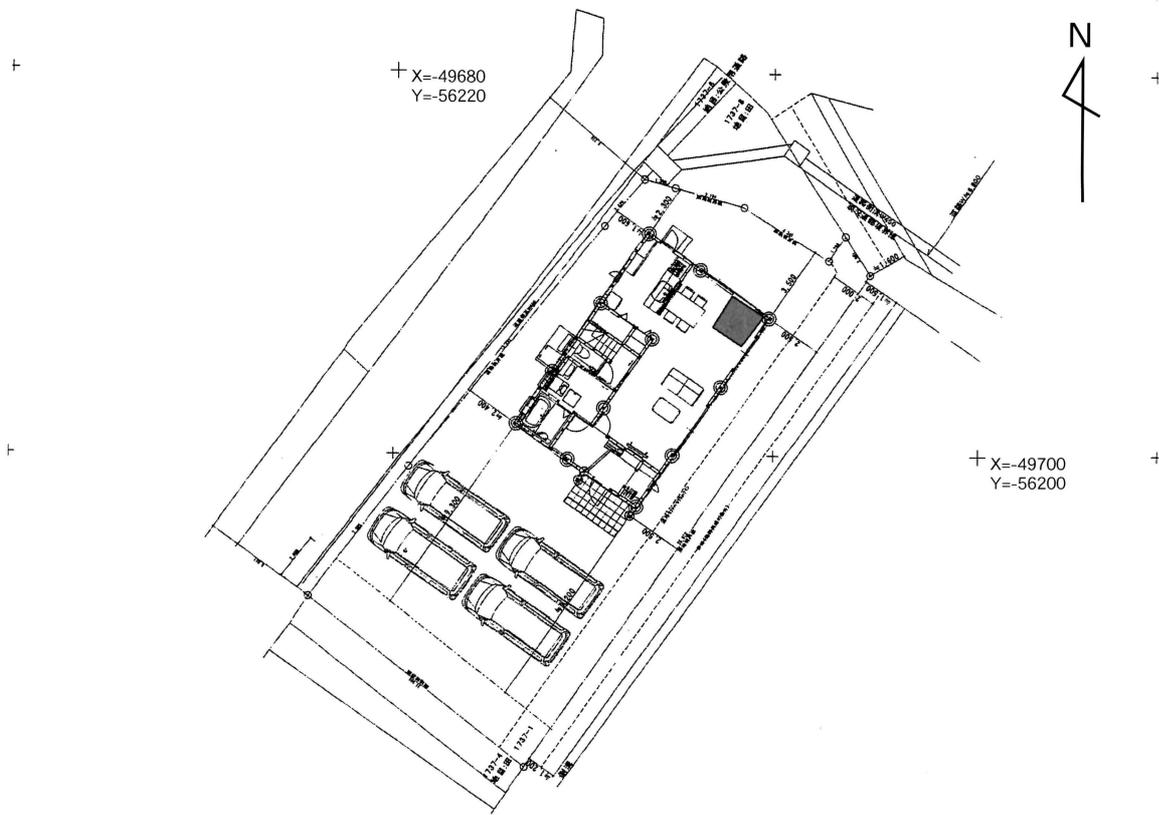
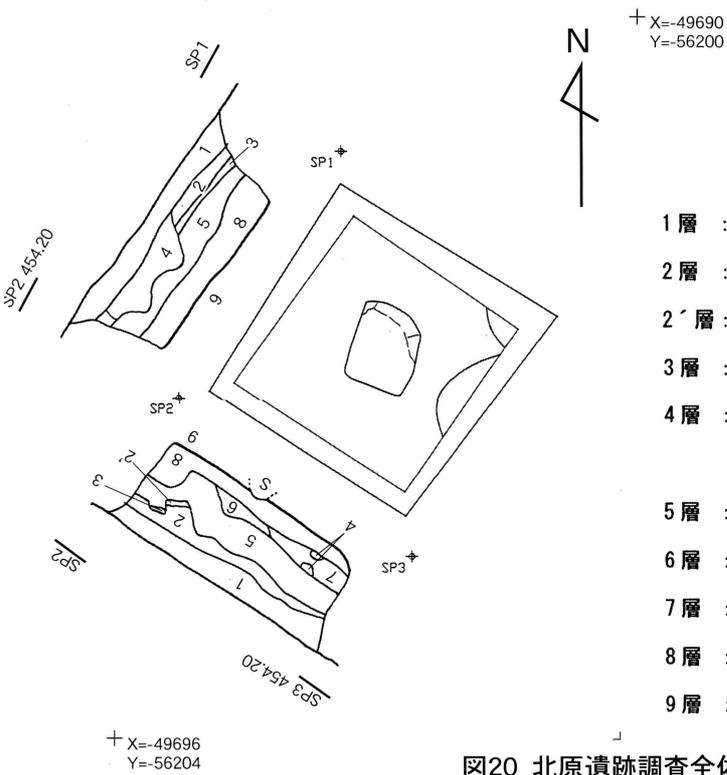


図19 北原遺跡トレンチ配置図(1:400)



- 1層 : 10YR3/3 : 暗褐 : 粘性弱い、しまり強い、耕土。
- 2層 : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性なし、しまりつよい。
- 2'層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性あり、しまり強い、砂を少し含む。
- 3層 : 7.5YR3/3 : 暗褐 : 粘性なし、しまりなし、水由来の鉄分層。
- 4層 : 10YR3/3 : 暗褐 : 粘性ごく弱い、しまり弱い、
Ⅲ層とⅤ層が5~10%程まだらに混ざる、抜根跡か。
- 5層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまりあり。
- 6層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまりやや弱い。
- 7層 : 10YR3/2 : 黒褐 : 粘性弱い、しまり弱い、シルト質。
- 8層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性なし、しまりなし、砂と1~10 cmの礫を多量に含む
- 9層 : 10YR5/6 : 黄褐 : 粘性なし、しまりごく弱い、ローム層。

図20 北原遺跡調査全体図及び土層断面図(1:60)

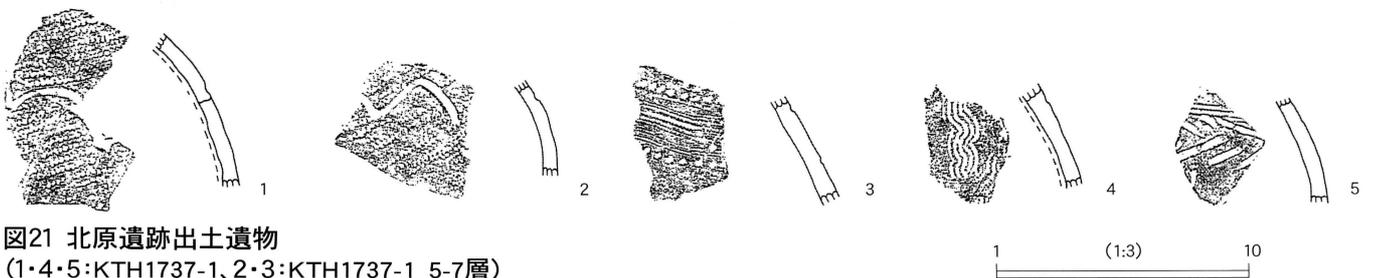


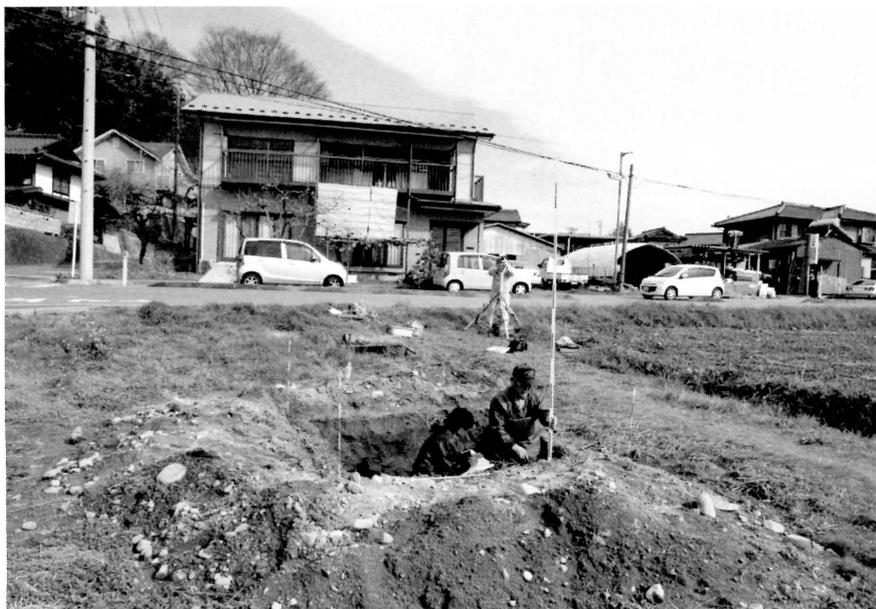
図21 北原遺跡出土遺物
(1・4・5:KTH1737-1、2・3:KTH1737-1 5-7層)



作業風景



検出状況



断面測量

こまばいせき 7 駒場遺跡（その2）

（1）調査の概要

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 調査地 | 高森町山吹3748-7 |
| 2 調査期間 | 平成27年12月16日
～25日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 山吹区事務所建設計画 |
| 5 開発面積 | — |
| 6 調査担当者 | 高島 佳奈 |
| 7 調査面積 | 26㎡ |
| 8 検出遺構 | なし |
| 9 出土遺物 | 土器片、石器片 |



図22 駒場遺跡（その2）調査位置図

（2）遺跡の環境

高森町山吹区駒場地区の標高約430m、南北700m、東西300mを遺跡の範囲とする。縄文から中世の遺跡とされているが、過去の発掘調査等の履歴はなく詳しい性格は明らかではない。

（3）調査の経過

平成28年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財包蔵地及び史跡・名勝・天然記念物等の保護について調査依頼を行った際、高森町役場経営企画室より、当計画についての提出があった。建設予定地が「駒場遺跡」の範囲内であることから、関係する遺構・遺物の存在が予想されるため、果樹の収穫を待ち、試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を行うこととした。

平成27年12月10日より試掘調査を開始した。調査は山吹区事務所建設計画地に3箇所のトレンチを設定し、重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。遺構までの深度は全てのトレンチで40～50cm程で、同年9月に調査した隣接地とほぼ同じであった。

少量の遺物は出土したが耕作による攪乱も多く、遺構は検出されなかった。断面図を任意の基準点を使用して作成し、測量を(有)M2クリエーションに委託実施した。現地における作業を12月25日に終了した。

（4）調査の所見

同年9月に調査を行った箇所よりも遺物・遺構ともに薄くなっていることから、遺跡の中心地からは外れていると推測される。過去の表採の様子から、遺跡の中心は調査箇所より東側にあると推測される。

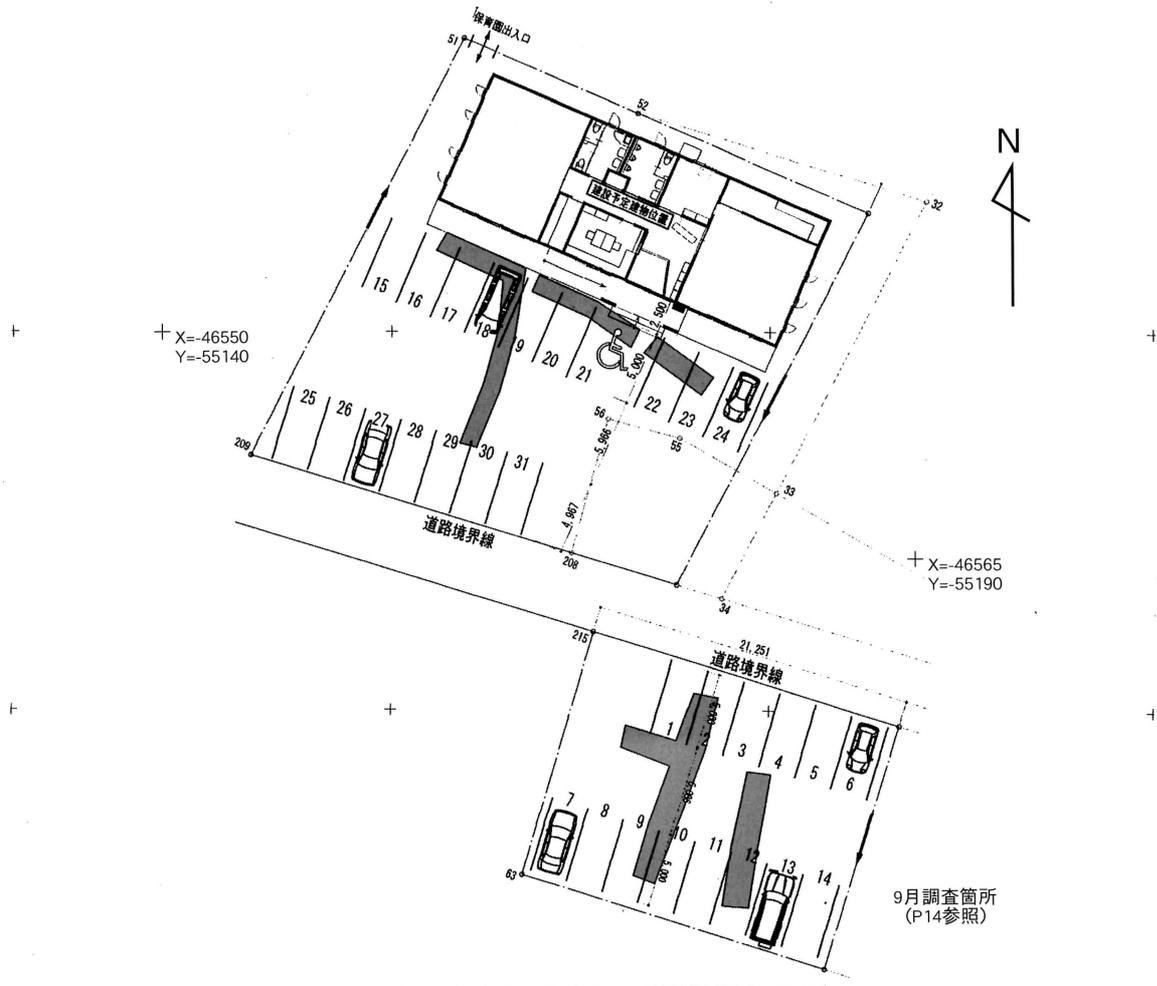


図23 駒場遺跡その2 トレンチ配置図(1:500)

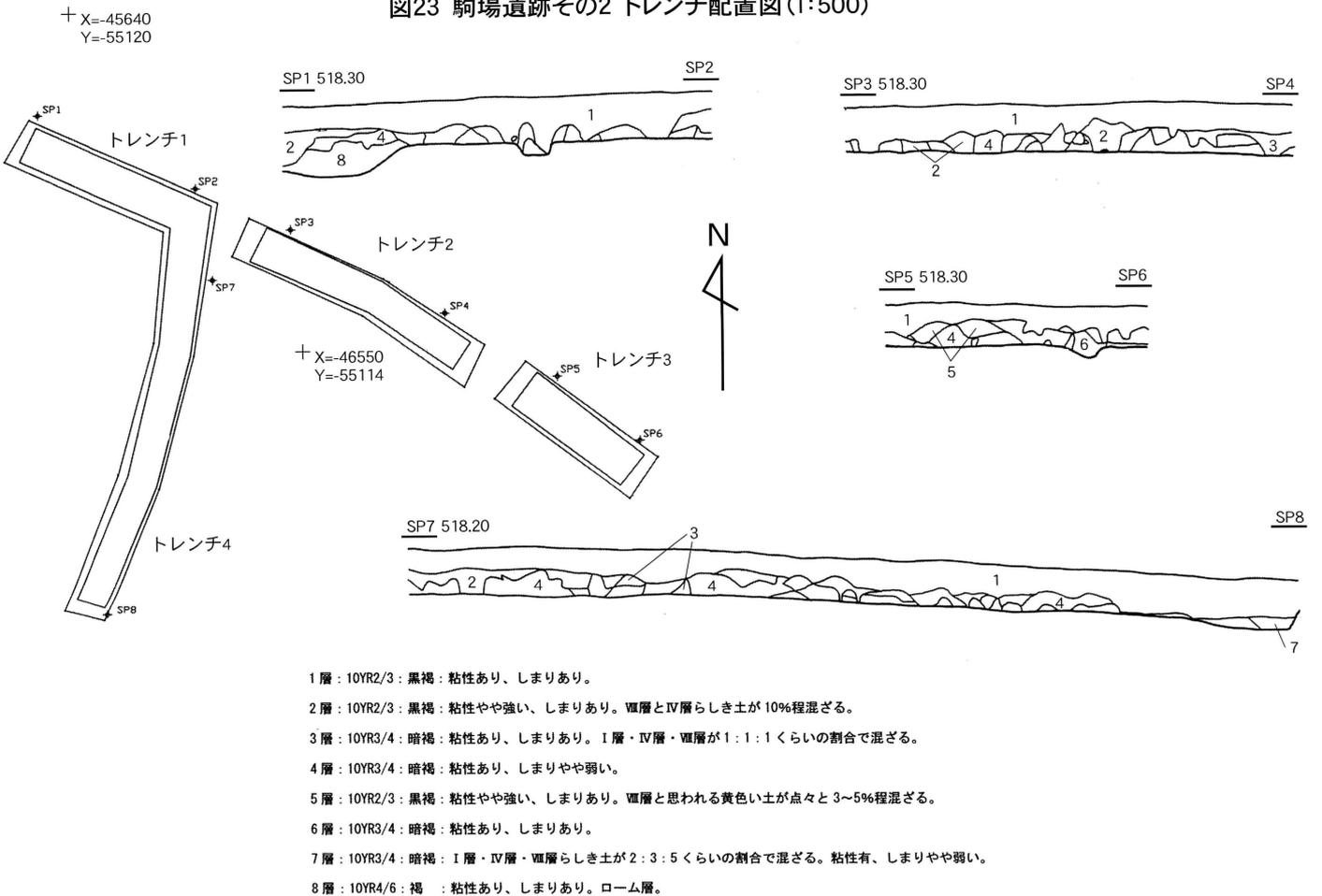


図24 駒場遺跡その2 調査全体図(1:200)及び土層断面図(1:80)



調査風景



検出状況



測量 断面図作成

8 きたはらいせき 北原遺跡（本調査）

（1）調査の概要

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 1 調査地 | 高森町下市田1737- 1 |
| 2 調査期間 | 平成28年1月15日
～2月1日 |
| 3 調査の目的 | 本調査 |
| 4 調査の要因 | 個人調査 |
| 5 開発面積 | 63㎡ |
| 6 調査担当者 | 高島 佳奈 |
| 7 調査面積 | 31㎡ |
| 8 検出遺構 | 溝跡1、土坑3 |
| 9 出土遺物 | 土器片、須恵器片、陶器片
灰釉陶器片、石器、鉄片 |

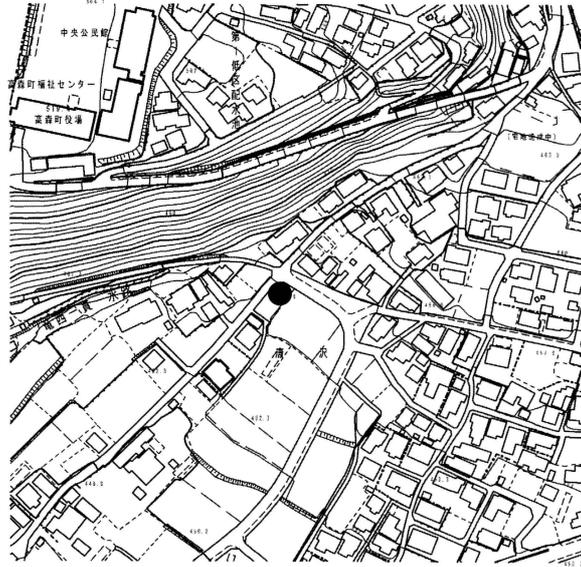


図25 北原遺跡（本調査）調査位置図

（2）遺跡の環境

本遺跡は下市田区北部の低位段丘上に位置し、東西600m、南北300mの範囲に広がる縄文から中世の集落遺跡である。また、遺跡北端部に1基、南側段丘端部に7基の古墳が存在し古墳群を形成している。

本遺跡は弥生時代中期後半、北原式土器の標識遺跡として知られる。昭和45・47年実施の住宅地開発に伴う発掘調査では弥生時代中期後半の住居址7軒と平安時代の住居址2件を、その後平成17・18年実施の土地改良事業、集会施設建設に伴う調査では弥生時代中期後半の竪穴住居址31軒、平安時代の竪穴住居址3軒を調査している。

（3）調査の経過

平成27年12月28日付け、高森町下市田2967 M2-A 上沼 一也より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は、個人住宅の建設計画である。同年11月に試掘調査（本報告書p17参照）を行っており、その後の地盤調査の結果、地盤改良を行うことが決まり、遺構を破壊する可能性が高いと判断したため、保護協議を行ったところ、計画変更は不可能であることから、記録保存のための発掘調査（本調査）を行うこととなった。

平成28年1月15日より調査を開始した。調査は試掘調査の際に発見された礎石の可能性のある石を追う形で重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、調査区北側に遺物の集中箇所が検出されたため、周囲を拡張したところ、溝跡が検出された。

調査地点の測量は、断面図を任意の基準点を使用して作成、測量を(有)M2クリエイションに委託実施し、現地作業を2月1日に終了した。

(4) 調査の所見

今回の本調査では、土坑が3基と溝跡が1条発見された。土坑は遺物を伴っておらず、時代は不明である。溝跡は遺物が集中している箇所があり住居址の存在が疑われたものの、砂と小礫を含む層が折り重なっており、同一個体の遺物が点在している状態から遺構であると判断した。また調査箇所中央を北東から南西に向けて流路が走っていることから、流れと堆積を繰り返していると推測される。

今回の調査では、礎石の続きは検出されなかったが、集中箇所から出土した遺物は、四耳壺・取手付き灰釉陶器・短頸壺など、いずれも平安時代のものであったことから、時代的には礎石である可能性が高まったといえる。今後の開発において南東側の隣接地には特に注意が必要である。

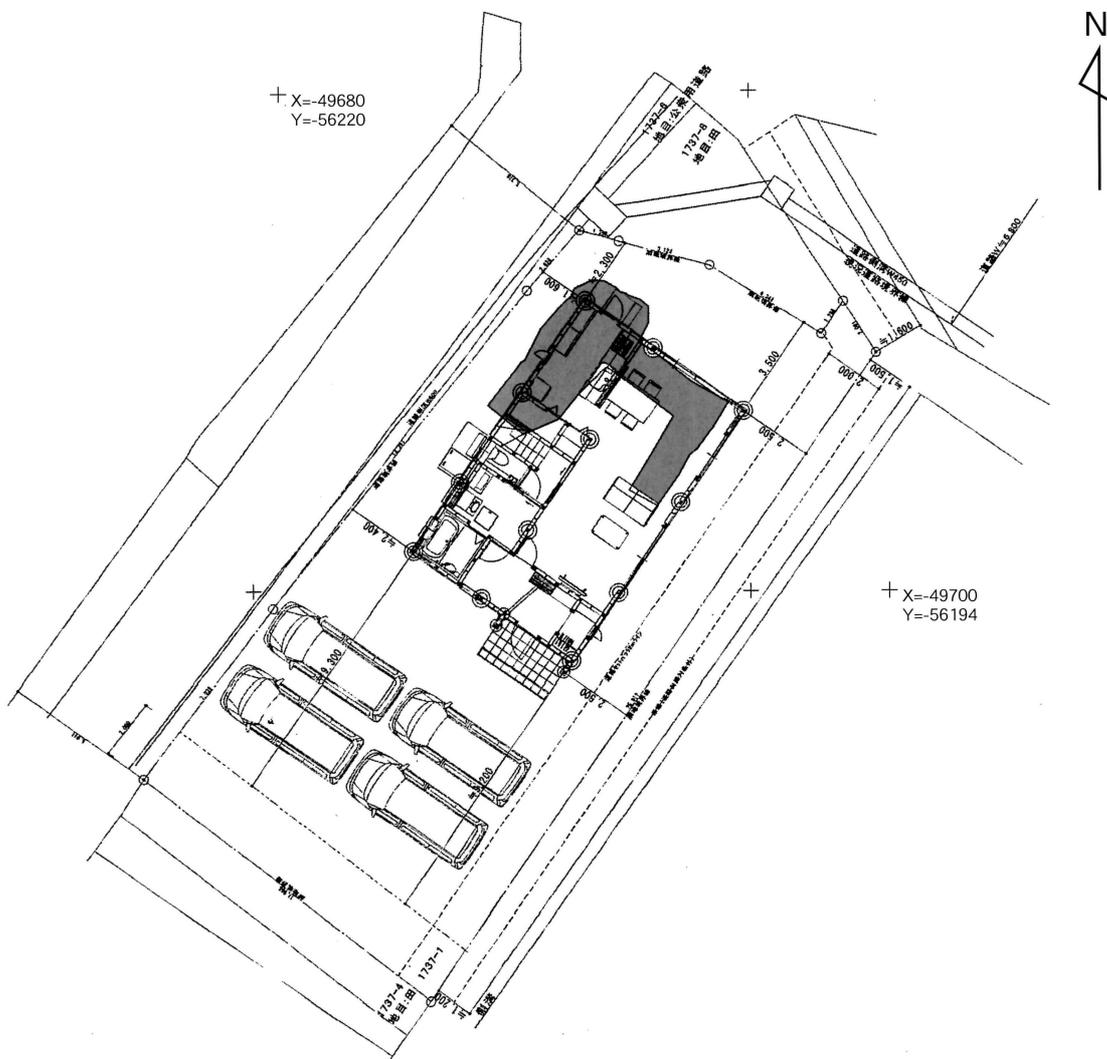
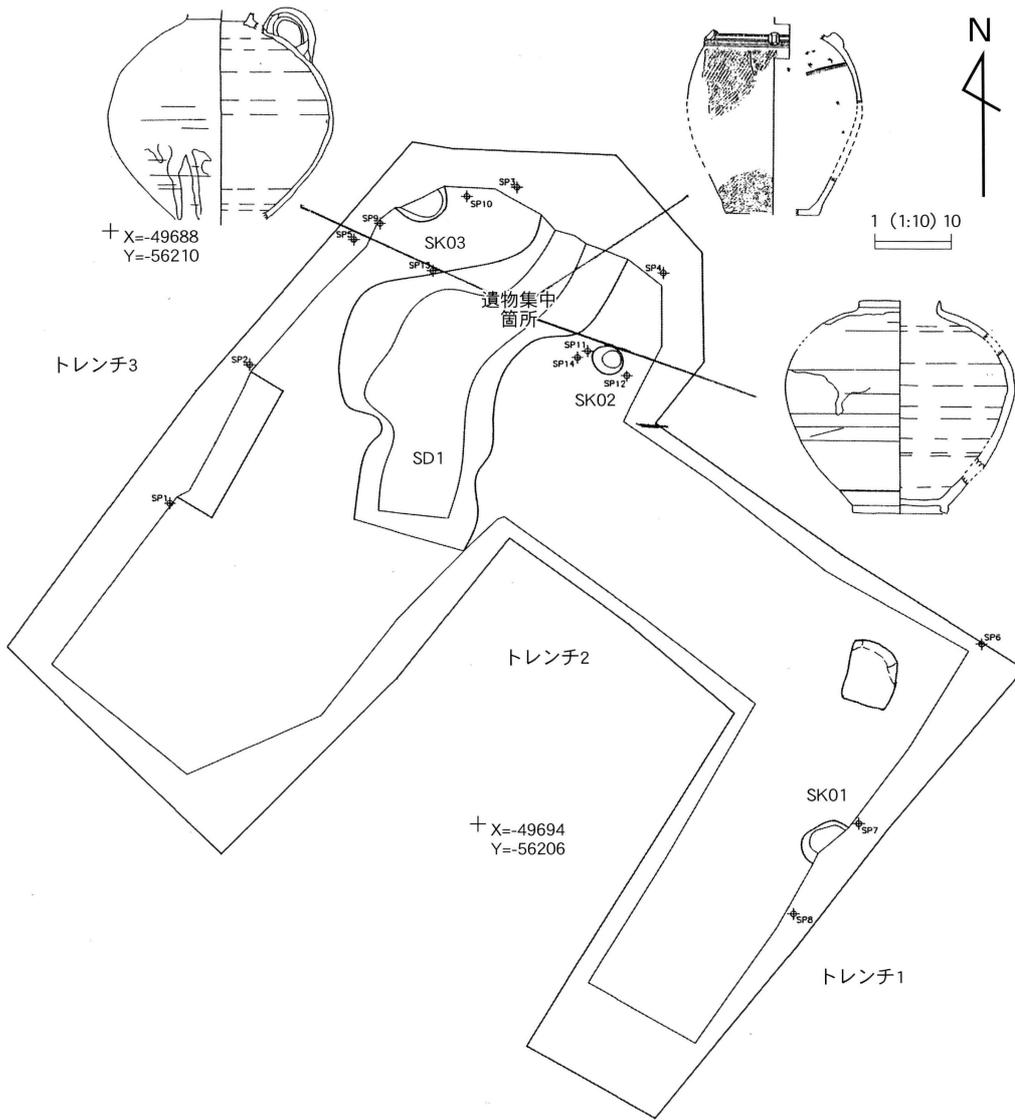
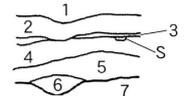


図26 北原遺跡本調査トレンチ配置図(1:400)



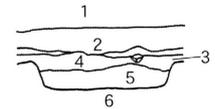
SP7 455.00 SP8



トレンチ 1

- 1層 (盛土) : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性強い、しまりやや弱い。
10YR6/8 : 明黄褐、10YR2/3 : 黒褐、
10YR4/4 : 褐が1:1で混ざる。
- 2層 : 10YR3/3 : 暗褐 : 粘性弱い、しまりあり。
- 3層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性弱い、しまりなし。
- 4層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性ほぼなし、しまり弱い、砂質。
つぶが大きい、川砂か。
- 5層 : 10YR4/6 : 褐 : 粘性やや弱い、しまりあり。
- 6層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまりあり、粘土質、土坑 (SK01)
- 7層 : 10YR4/4 : 褐 : しまりあり、粘性あり、ローム層。

SP1 455.20 SP2

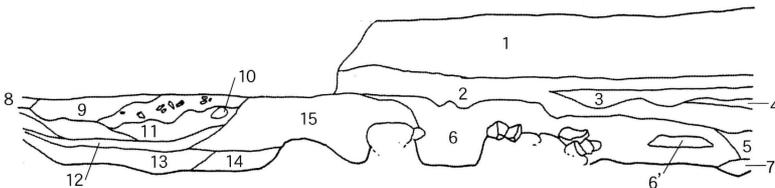


トレンチ 3

- 1層 (盛土) : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性強い、しまりやや弱い。
10YR6/8 : 明黄褐、10YR2/3 : 黒褐、
10YR4/4 : 褐が1:1で混ざる。
- 2層 : 10YR : 3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまりあり。
- 3層 : 7.5YR4/4 : 褐 : 粘性あり、しまりあり。
- 4層 : 10YR4/6 : 褐 : 粘性ごく弱い、しまり弱い。
- 5層 : 10YR5/6 : 黄褐 : 粘性なし、しまりなし、砂を主体とする。
- 6層 : 10YR5/6 : 黄褐 : 粘性なし、しまりなし。
花崗岩由来の小礫が多く混じる、地山。

SP5 455.00

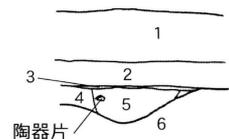
SP6



トレンチ 2

- 1層 (盛土) : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性強い、しまりやや弱い。
10YR6/8 : 明黄褐、10YR2/3 : 黒褐、
10YR4/4 : 褐が1:1で混ざる。
- 2層 : 10YR3/3 : 暗褐 : 粘性強い、しまり強い、粘土質。
- 3層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性あり、しまり強い。
- 4層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性弱い、しまりなし。
- 5層 : 10YR4/3 : にぶい黄褐 : 粘性やや弱い、しまりあり。
- 6層 : 10YR5/4 : にぶい黄褐 : 粘性弱い、しまりあり、川砂、花崗岩由来の砂多量に含む。
- 6'層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性強い、しまり強い、粘土質。
- 7層 : 10YR5/4 : にぶい黄褐 : 粘性なし、しまり無、きめの揃った砂。
- 8層 : 10YR4/6 : 褐 : しまり弱い、粘性やや弱い。
- 9層 : 10YR2/3 : 黒褐 : 粘性やや弱い、しまり弱い。
- 10層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性有、しまりあり、粘土強い、遺物集中箇所。
- 11層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性なし、しまりなし、砂と小礫で構成されている。
- 12層 : 7.5YR4/3 : 褐 : 粘性あり、しまりあり、多く雲母や砂が混ざる。
- 13層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性なし、しまりなし、砂と礫で構成されている。
⑩層とよく似ているが礫が全体的に大きい。
- 14層 : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性あり、しまりあり、シルト質。
- 15層 : 10YR5/6 : 黄褐 : 粘性弱い、しまりとても弱い、花崗岩の小礫を含むローム層。

SP3 455.00 SP4



溝跡

- 1層 (盛土) : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性強い、しまりやや弱い、10YR6/8 : 明黄褐、
10YR2/3 : 黒褐、10YR4/4 : 褐が1:1:1で混ざる。
- 2層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまりあり。
- 3層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性弱い、しまり強い。
- 4層 : 10YR3/4 : 暗褐 : しまりなし、粘性弱い、小石や砂が混じる。
- 5層 : 10YR4/3 : にぶい黄褐 : 粘性強い、しまり強い。
- 6層 : 10YR5/6 : 黄褐 : 粘性弱い、しまりとても弱い、
花崗岩の小石～礫を含む、ローム層。

図27 北原遺跡調査全体図及び土層断面図(1:80)

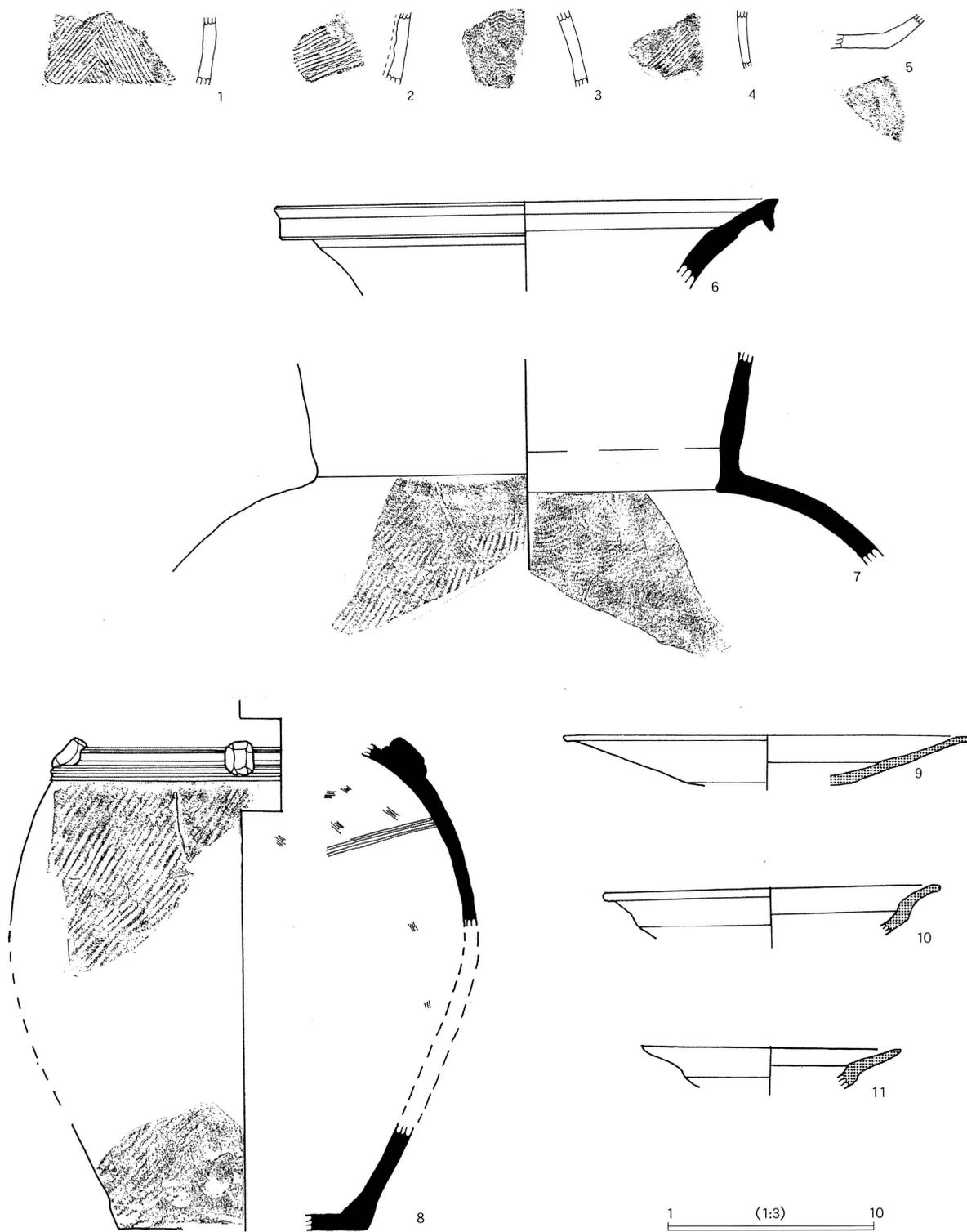


図28 北原遺跡出土遺物

(1:KTH1737-1 トレンチ1, 2:KTH1737-1 3トレサブトレW, 3・4:KTH1737-1 3トレSD1, 5:KTH1737-1 2トレ, 6・7・8:KTH1737-1 3トレSD1ドシュウ, 9・10・11:KTH1737-1 3トレSD1)

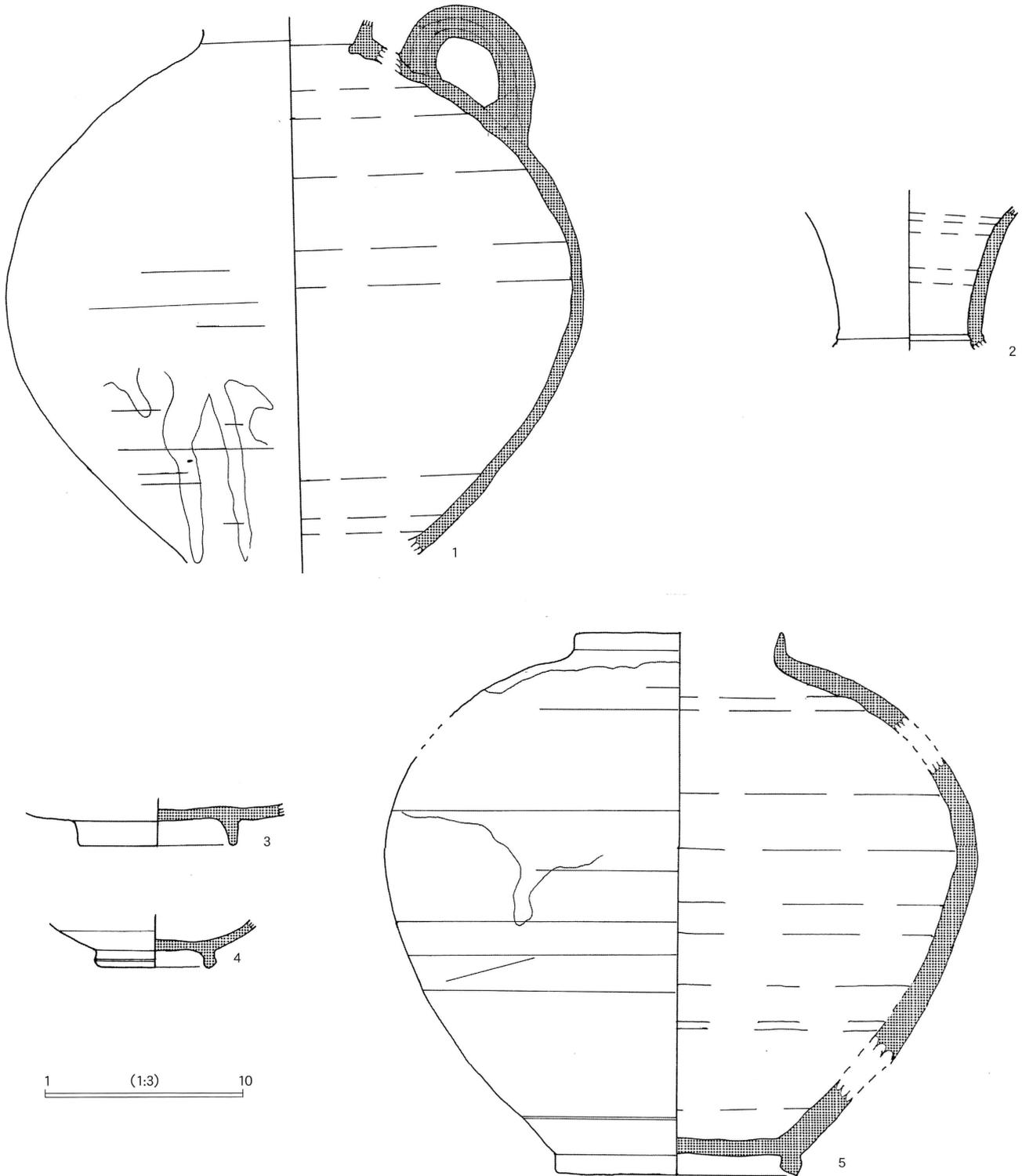


図29 北原遺跡出土遺物
 (1・2・3・5:KTH1737-1 3トレSD1ドシュウ、4:KTH1737-1 3トレSD1)



作業風景



検出作業



検出状況



遺物集中箇所



遺物写真 1



遺物写真 2

9 どうがいと いせき 堂垣外遺跡

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1 調査地 | 高森町下市田1873-1 |
| 2 調査期間 | 平成28年2月17日
～3月2日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 建売住宅建設 |
| 5 開発面積 | 1,671㎡ |
| 6 調査担当者 | 高島 佳奈 |
| 7 調査面積 | 37㎡ |
| 8 検出遺構 | 住居址2軒、土坑20、溝跡3 |
| 9 出土遺物 | 土器片、須恵器、土師器、
灰釉陶器、石器 |

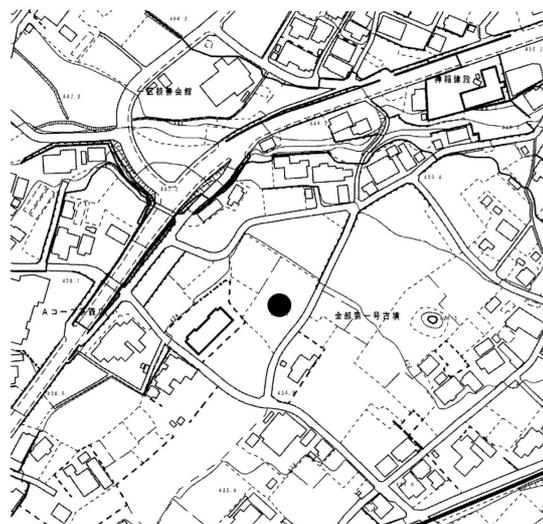


図30 堂垣外遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

届出箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地「堂垣外遺跡」に該当し、東西400m、南北850mの範囲に広がる弥生・古墳時代の集落遺跡である。また、遺跡北端部には金部古墳群が含まれている。

本遺跡での発掘調査は、平成7年の高森ショッピングセンター建設に先立つ調査が初で、これまでの数次における発掘調査で、弥生時代、古代（古墳時代～平安時代）の大規模な拠点集落であることが明らかになってきた。

(3) 調査の経過

平成28年1月8日付け、飯田市主税町18番地 神稲建設株式会社 代表取締役 福澤 栄夫 より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は、建売住宅建設に向けた宅地造成計画であり、計画箇所が堂垣外遺跡の範囲内であることから、計画段階で遺構・遺物の存在の確認を行うため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

平成28年2月17日より試掘調査を開始した。調査は建売住宅建設予定地に4箇所のトレンチを設定し、重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。

住居址や柱穴などが検出されたことから長野県教育委員会に要請を行い、2月23日に現地で県教委・町教委・事業主体者による三者協議を行った。その結果、宅地造成の際に行われる盛土により、基礎掘削を行っても遺跡面までの保護層30cm以上を確保できることが確認されたため、埋没保存とし、掘削を行う進入路のみ、造成時に深度を確認することとなった。

断面図を任意の基準点を使用して作成し、測量を㈲M2クリエーションに委託実施した。現地における作業を3月2日に終了し、工事着工となった。

(4) 調査の所見

調査区北側の1トレンチは、深度約50cmで住居址(S B 1)の床が検出された。上層部分は耕作によって既に攪乱されており、住居の壁もほとんど残っておらず、貼床だけがあるような状態であった。確認の為にサブトレンチを設定した所、貼床の下から9世紀中頃の円筒型土器の破片がまとまって出土したが、その他の遺物は既に耕作によって動いてしまっているらしく少量であった。

調査区西側の2トレンチは住居址と礎石を思わす石が検出された。三者協議後確認のためにサブトレンチを設定したところ、石は底から浮いた状態であり、底が歪であったことから溝跡とそこに流れ込んだ石であったと推測される。

調査区東側のトレンチ3からは10基の土坑が検出され、位置や形状から柱穴と推測されるものが複数あった。土坑からは半裁に伴い、S K 12・S K 18からは土師器片、S K 14からは土師器片と鉄片、S K 16からは土師器片・須恵器片・灰釉陶器片、S K 17からは須恵器片が出土しており、奈良・平安時代の遺構であると考えられる。また北東の角にあった溝(S D 3)を半裁したところ、約50cmの深さがあり、壁などから人為的な溝と推測され、中からは「目」と書かれた墨書土器が出土した。

調査区南側のトレンチ4は遺構までの深度が約110cmと深く、住居址(S B 2)が1軒検出された。灰釉陶器片やV字型の刻書の刻まれた黒色土器が出土したことから、平安時代の住居址であると考えられる。

今回の調査によって飯田市座光寺の国史跡である恒川官衙遺跡と高森町国道周辺の遺跡の繋がりについて再認識されたといえる。特にトレンチ1の住居址から出土した円筒型土器は、飯田下伊那地域では恒川遺跡群からの出土に次ぐ2例目の出土であることから、当時の関係性が予想される。

宅地造成では三者協議によって埋没保存となったが、今後建売住宅を建設していく中で、地盤調査の結果によっては遺構面まで及ぶ開発の可能性もあるため、事業者と情報交換を行い、今後の開発に注意を払う必要がある。

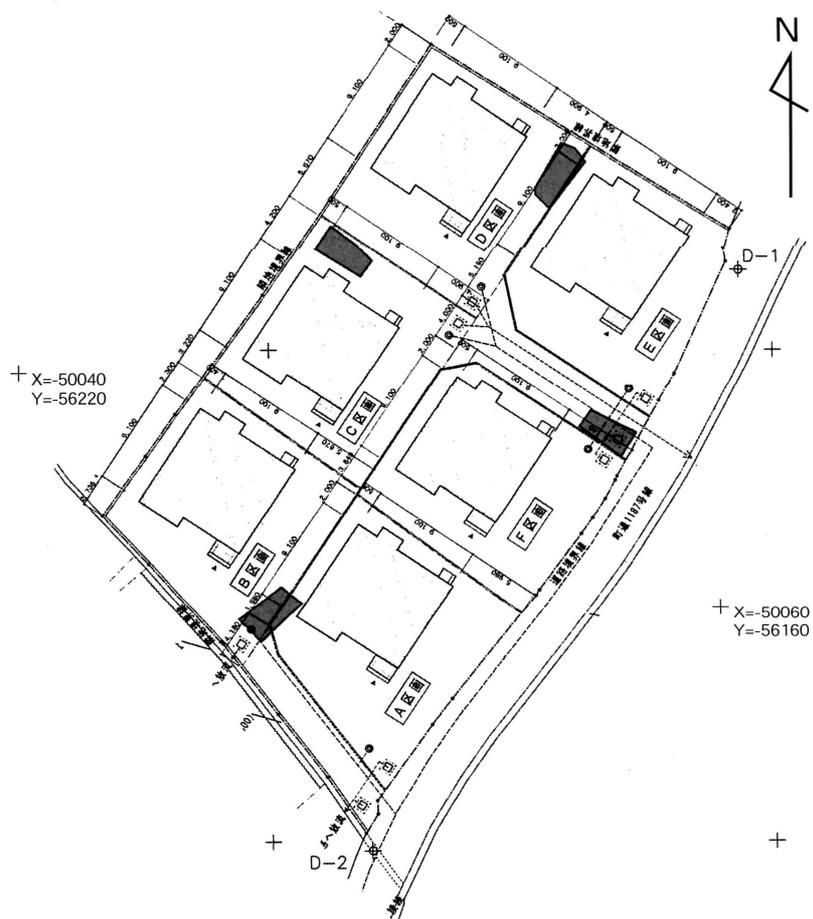
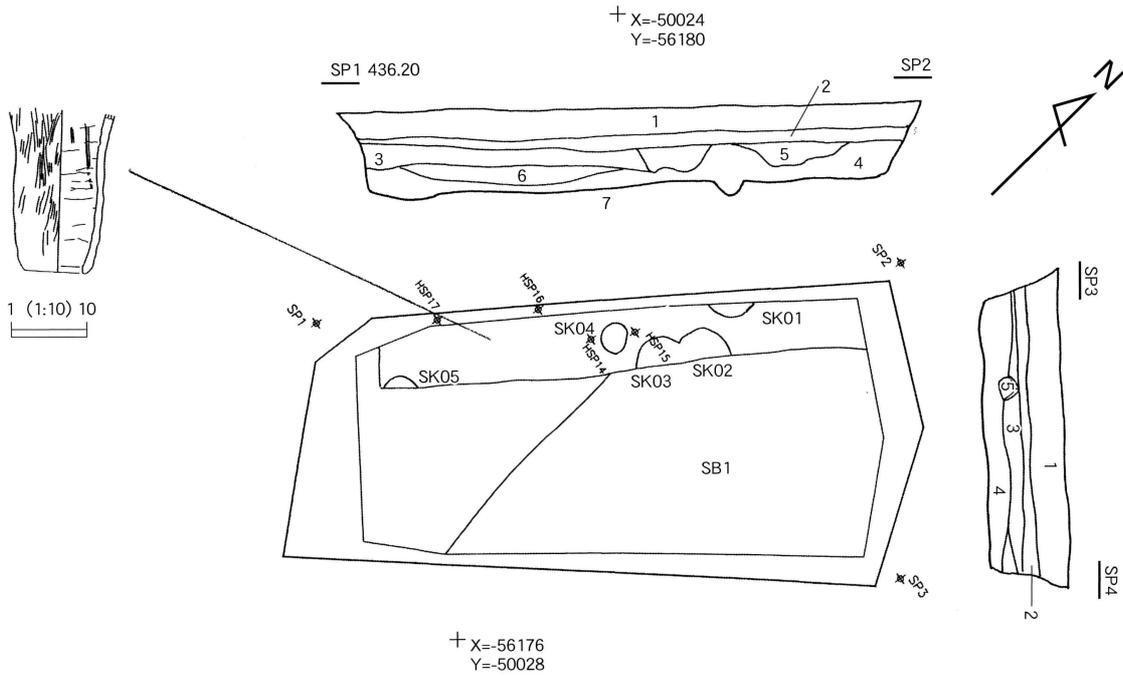
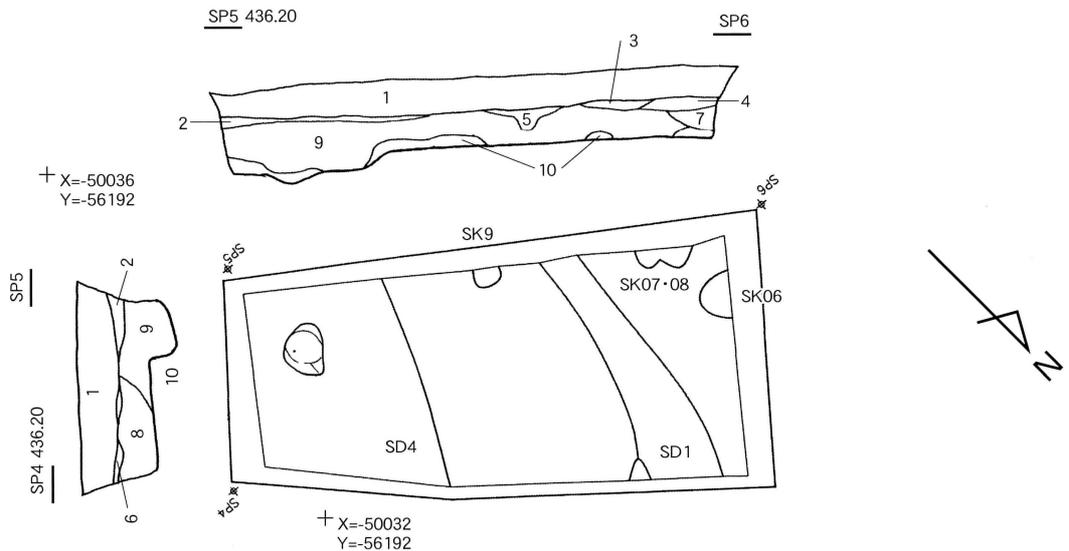


図31 堂垣外遺跡調査全体図(1:600)



トレンチ1

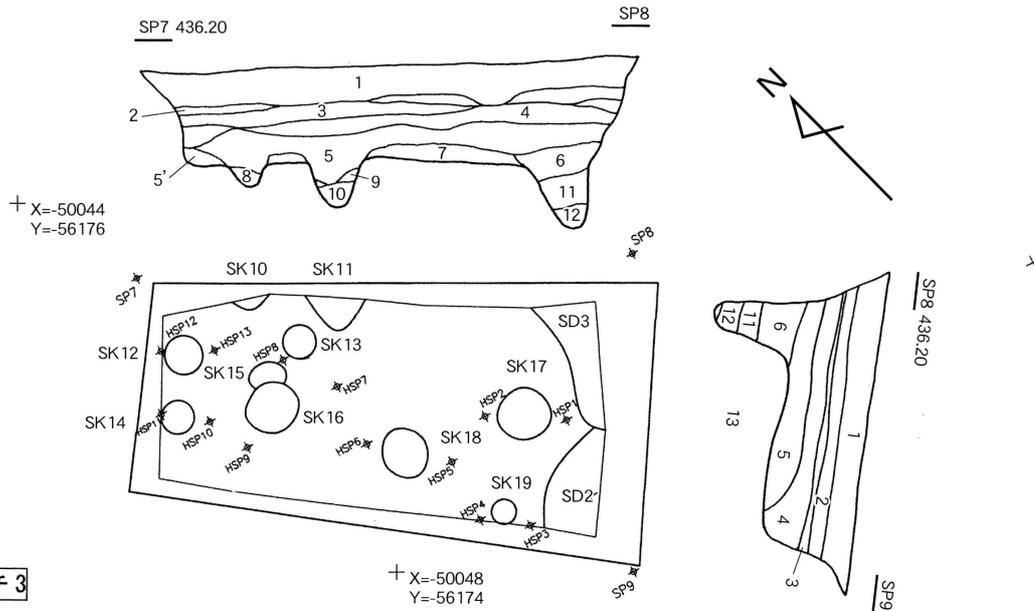
- | | |
|---|---|
| 1層 : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性強い、しまりあり。表土の田泥。 | 5層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性あり、しまりやや弱い、黄色い土がまだらに混ざる。 |
| 2層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性強い、しまりあり。水田由来の鉄分を含む。 | 4'層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性強い、しまり強い、雲母が混ざる。 |
| 3層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性強い、しまり強い、雲母が混ざる。 | 6層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性弱い、しまり弱い。5・4'層に似ている。 |
| 4層 : 10YR3/3 : 暗褐 : 粘性強い、しまりあり。3層に似ているが砂が多く混ざる。 | 7層 : 10YR4/6 : 褐 : 性弱い、しまり弱い、ローム。 |
| 4'層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまりとても強い。 | |
- ロームに似た黄色い砂と4層が1:2でまだらに混ざる。



トレンチ2

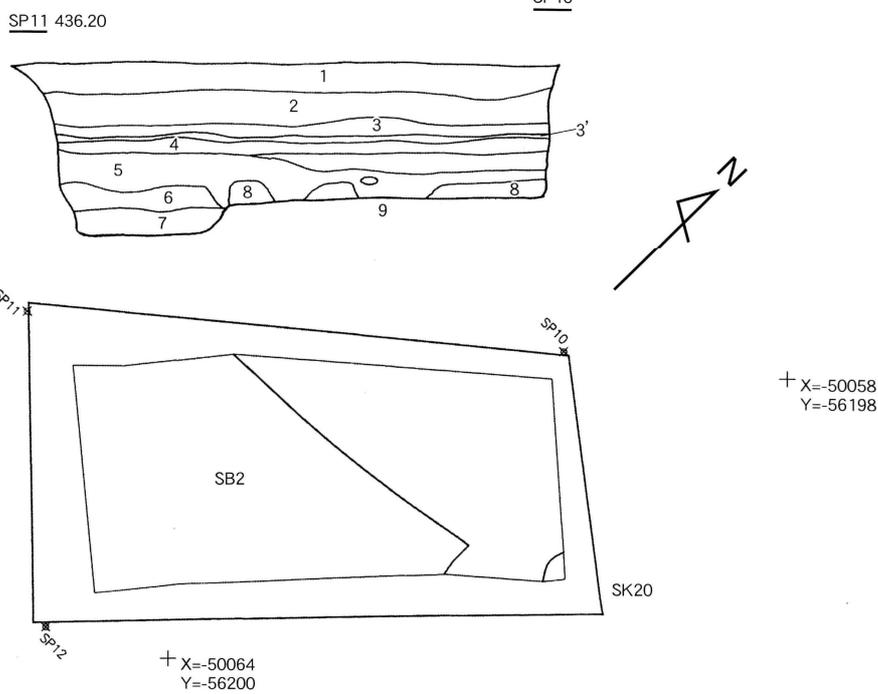
- | | |
|--|---|
| 1層 : 10YR4/3 : にぶい黄褐 : 粘性強い、しまり弱い。表土の田泥。 | 6層 : 10YR3/3 : 暗褐 : 粘性とても強い、しまり強い、シルトと砂を含む。 |
| 2層 : 10YR3/4 : 暗褐 : 粘性あり、しまり強い。 | 7層 : 10YR2/2 : 黒褐 : 粘性あり、しまりあり、キメの細かいシルト。 |
| 3層 : 10YR3/3 : 暗褐 : 粘性強い、しまりあり。 | 8層 : 7.5YR2/3 : 極暗褐 : 粘性強い、しまり強い、砂多く混ざる。 |
| 4層 : 7.5YR3/2 : 黒褐 : しまりあり、粘性やや弱い、砂が混ざる。 | 9層 : 10YR3/3 : 暗褐 : しまり強い、粘性強い、砂わずかに混ざる。 |
| 5層 : 10YR4/2 : 灰黄褐 : 粘性あり、しまりあり。 | 10層 : 10YR4/4 : 褐 : 粘性あり、しまりあり、地山。 |

図32 堂垣外遺跡調査全体図(トレンチ1-トレンチ2)及び土層断面図(1:60)



トレンチ3

- | | | | |
|----------------------|--------------------------|---------------------|------------------------------|
| 1層 : 10YR4/3 : にぶい黄褐 | : 粘性強い、しまり弱い。表土の田泥。 | 7層 : 10YR4/6 : 褐 | : 粘性強い、しまり強く強い。 |
| 2層 : 10YR4/4 : 褐 | : 粘性強い、しまりあり、水田由来の鉄分を含む。 | 8層 : 10YR3/4 : 暗褐 | : 粘性あり、しまりあり。 |
| 3層 : 10YR4/4 : 褐 | : 粘性あり、しまりあり、砂を含む水田の事業層。 | 9層 : 10YR4/4 : 褐 | : しまり強い、粘性やや強い、黄色の砂がまだらに混ざる。 |
| 4層 : 10YR3/4 : 暗褐 | : 粘性あり、しまりあり、シルト含む。畑の耕土に | 10層 : 10YR3/4 : 暗褐 | : しまりあり、粘性やや強い、シルト含む。 |
| 5層 : 10YR3/4 : 暗褐 | : 粘性強い、しまり強い。 | 11層 : 10YR4/4 : 褐 | : しまり強い、粘性やや弱い。 |
| 5'層 : 10YR4/6 : 褐 | : 粘性あり、しまりあり、強い粘土質。 | 12層 : 10YR4/4 : 褐 | : しまり強い、粘性やや弱い、小礫少々あり。 |
| 6層 : 10YR4/4 : 褐 | : 粘性あり、しまりあり、砂多めに混ざる。 | 13層 : 10YR6/6 : 明黄褐 | : 粘性なし、しまりなし、ローム層。 |



トレンチ4

- | | | | |
|----------------------|--------------------------|----------------------|-----------------------------|
| 1層 : 10YR3/3 : 暗褐 | : 粘性強い、しまりやや弱い。表土の田泥。 | 6層 : 10YR3/4 : 暗褐 | : 粘性とても強い、しまりやや弱い。力強い粘土。 |
| 2層 : 10YR3/3 : 暗褐 | : 粘性あり、しまりあり、シルト。 | 7層 : 10YR3/3 : 暗褐 | : 粘性強い、しまり弱い。住居地の覆土で粘土質。 |
| 3層 : 10YR5/3 : にぶい黄褐 | : 粘性強い、しまりあり、過去の水田跡。 | 8層 : 10YR3/3 : 暗褐 | : 粘性あり、しまりあり。黄色い砂がまだらに混ざる土。 |
| 3'層 : 10YR4/4 : 褐 | : 粘性あり、しまりあり、水田由来の鉄分を含む。 | 9層 : 10YR4/3 : にぶい黄褐 | : 粘性あり、しまりとても弱い。 |
| 4層 : 10YR4/3 : にぶい黄褐 | : 粘性強い、しまりあり。 | | |
| 5層 : 10YR3/3 : 暗褐 | : しまりとても強い、粘性やや強い。 | | |

図33 堂垣外遺跡調査全体図(トレンチ3-トレンチ4)及び土層断面図(1:60)

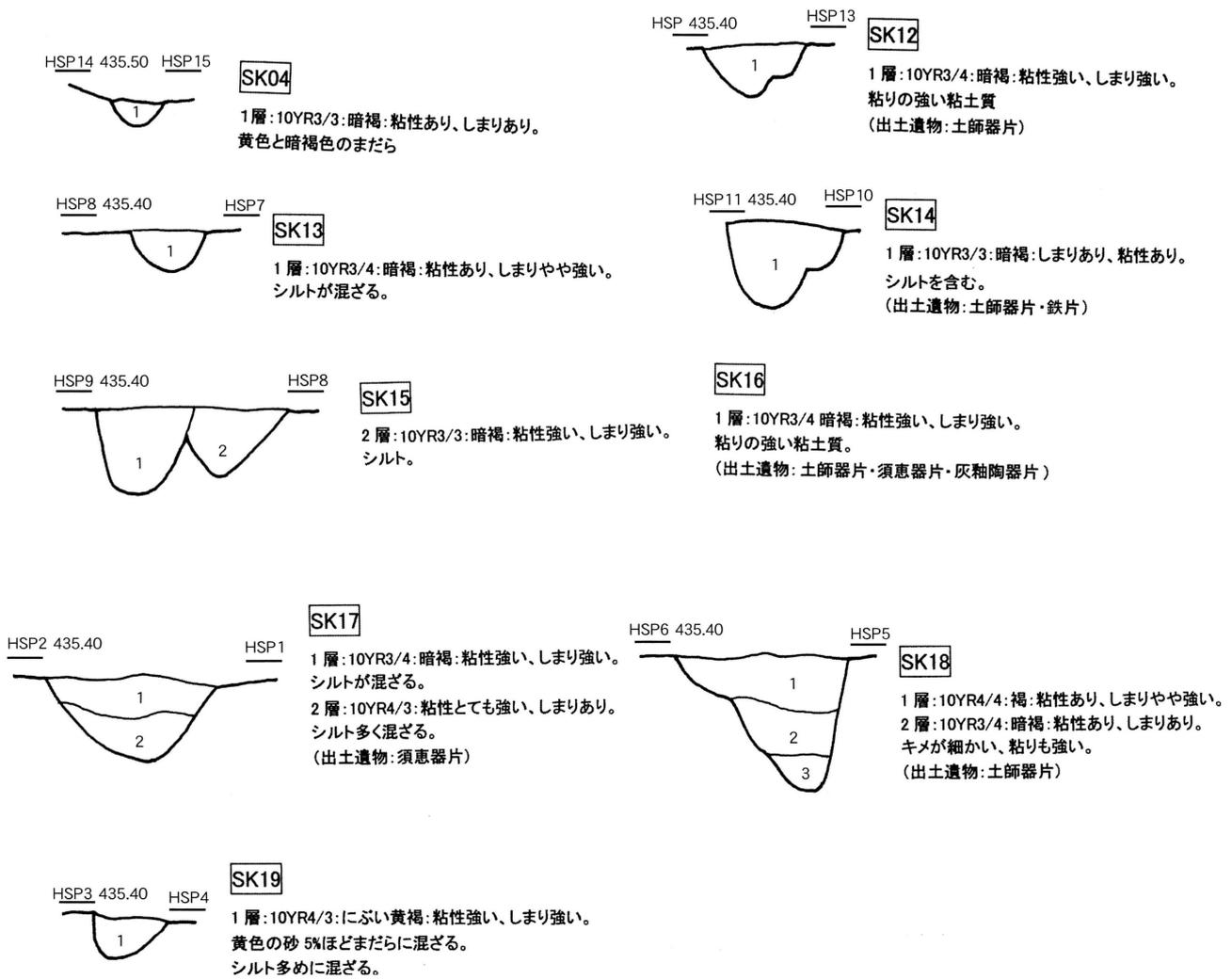


図34 堂垣外遺跡土坑半裁図(1:20)

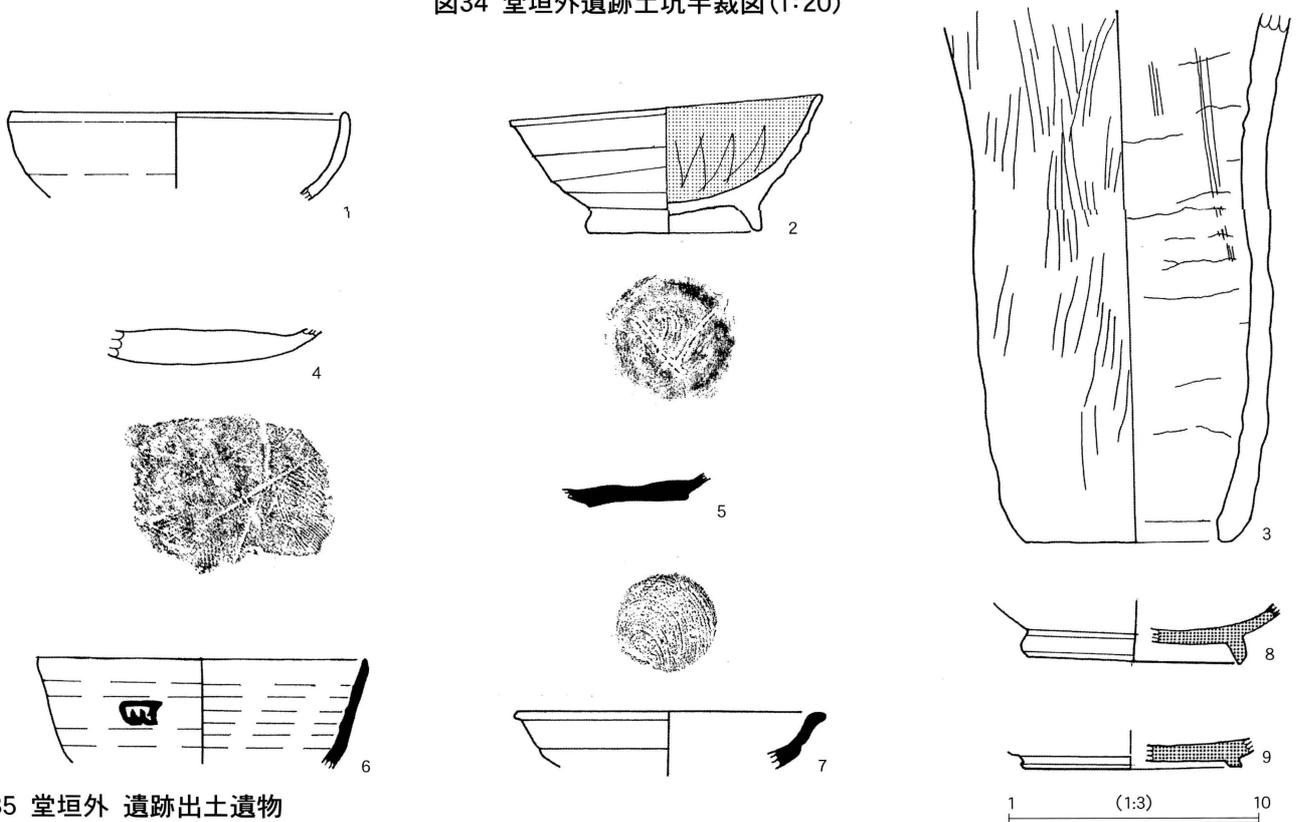


図35 堂垣外 遺跡出土遺物

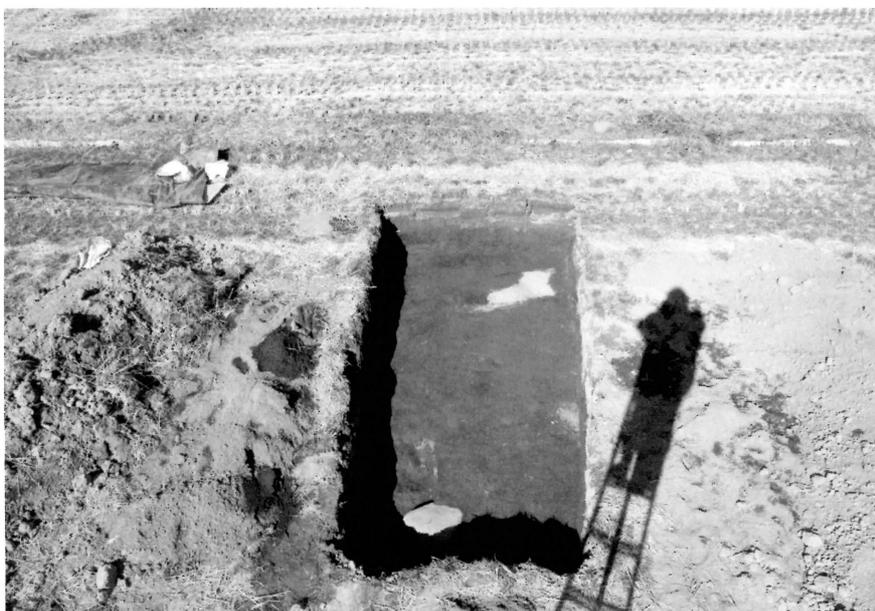
(1:DGT1873-1 2トレ, 2:DGT1873-1 4トレSB2サブトレW, 3:DGT1873-1 SB1, 4:DGT1873-1 3トレ, 5:DGT1873-1 4トレSB2サブトレW, 6:DGT1873-1 3トレSD3, 7:DGT1873-1 4トレ, SB2サブトレS, 8:DGT1873-1 4トレSB2サブトレS, 9:DGT1873-1 4トレSB2 SW)



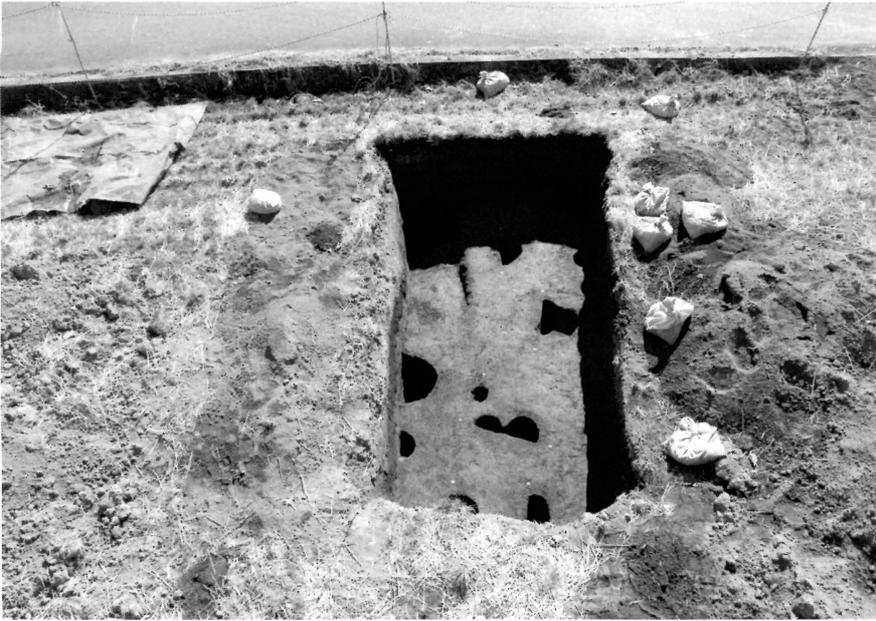
作業風景



トレンチ1 検出状況



トレンチ2 検出状況



トレンチ 3 検出状況



トレンチ 4 検出状況



測量 断面図作成



S B 1 の床を含むトレンチ 1 断面



円筒型土器検出状況



円筒型土器



S B 2 の床及び壁を含むサブトレンチ



S K 15 - 16



S K 18



SD 3



三者協議



出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな							
書名							
副書名	平成27年度高森町埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編集者名	岩崎 徹 ・ 高島 佳奈						
編集機関	高森町教育委員会						
所在地	〒399-3103 長野県下伊那郡高森町下市田2183番地1 Tel.0265-35-9416						
発行年月日	2017年（平成29年） 3月						
ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村コード	世界測地系		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		遺跡番号	北緯	東経			
ぶ 武 陵 地	高森町下市田 220-1	20403	35° 32' 23"	137° 52' 00"	平成27年 5月11日～ 15日	24	個人住宅
		110					
まし の しん きり 増 野 新 切 Ⅱ	高森町山吹 8825-3	20403	35° 35' 15"	137° 53' 08"	平成27年 7月22日～ 23日	28	個人住宅
		6					
まし の に けん や 増 野 二 軒 屋	高森町山吹 5230-10	20403	35° 35' 31"	137° 53' 07"	平成27年 8月19日	28	太陽光発 電施設
		7					
うえ 上 平	高森町山吹 5051-3	20403	35° 34' 48"	137° 53' 51"	平成27年 9月9日～ 11日	3	地域集会 施設
		20					
こま 駒 場	高森町山吹 3760-2	20403	35° 34' 43"	137° 53' 30"	平成27年 9月15日～ 25日	43	地域集会 施設
		19					
きた 北 原	高森町下市田 1737-1	20403	35° 33' 01"	137° 52' 48"	平成27年 11月11日～ 20日	3	個人住宅
		99					
こま 駒 場 その 2	高森町山吹 3748-7	20403	35° 34' 44"	137° 53' 30"	平成27年 12月10日～ 25日	26	地域集会 施設
		19					
きたはら 北原(本調査)	高森町下市田 1737-1	20403	35° 33' 01"	137° 52' 48"	平成28年 1月15日～ 2月1日	31	個人住宅
		99					
どう 堂 垣 外	高森町下市田 1873-1	20403	35° 32' 50"	137° 52' 48"	平成28年 2月17日～ 3月2日	37	宅地造成
		104					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
武 陵 地	古 墳	古墳～奈良平安	溝跡 1	縄文土器・弥生土器・須恵器・石器	
増 野 新 切 Ⅱ	集落跡	縄文	なし	土器・石器・黒曜石	
増 野 二 軒 屋	集落跡	縄文	なし	なし	
上 平	散布地	縄文～弥生	なし	土器・石器・瓦・陶器	
駒 場	散布地	縄文～弥生/中世	土坑 7 溝跡 1	縄文土器(中期～後記) 弥生土器・陶器(中世) 須恵器・石器	
北 原	集落跡 古墳	縄文～中世	なし	弥生土器(中期) 陶器(中世)・石器	
駒 場 其 の 2	散布地	縄文～弥生	なし	土器・石器	
北 原 (本 調 査)	集落跡 古墳	縄文～中世	土坑 3 溝跡 1	縄文土器・弥生土器・土師器 須恵器・灰釉陶器(平安時代) 石器・鉄片	
堂 垣 外	集落跡 古墳	弥生・古墳	住居址 2 土坑 20 溝跡 4	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器 灰釉陶器・石器・鉄片	

平成27年度 町内遺跡発掘調査報告書

発 行 2017年3月
発行者 長野県下伊那郡高森町下市田2183-1
高森町教育委員会
印 刷 龍共印刷株式会社
